

授 業 要 綱

2026 年度（令和 8 年度）

作業療法学科 昼間部

専門学校 社会医学技術学院

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座										
担当者氏名	並木秀樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

効果的な学びを実施するために、本校での学習に必要な基礎的な力を身につける

《テキスト》

特になし（必要な資料は配布する）

《参考図書》

《行動目標 (SB0s)》

- ①学校生活および社会人としての態度を理解し、行動することができる
- ②学習に必要な、「調べる」「文章を書く」「図示する」「考えを話す」「聞き取る」という能力を身につけ、行なうことができる
- ③実習の目的目標を理解し、必要な準備・行動を説明できる

《学生の留意点》

専門家として働くものを要請する専門学校での学習をよりスムーズに進めるための授業となる。
そのため、この授業だけで完結するものではなく、他の授業に活かすようにしていく必要がある。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験および教育経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《成績評価の方法》

筆記試験：60% 課題：40%
上記の合計100%中、6割に満たない場合は再試験を行う

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	並木	作業療法士として求められること	作業療法士や作業療法士を目指すにあたって求められる態度・行動（基本的な社会人マナーについて実行できるように学んでいく）
2	講義教室	並木	調べる	言葉の意味、知りたいことに合わせて調べる（専門用語、特に解剖や運動学などで使用される言葉の意味を知り、理解しやすくするとともに、知りたい内容から調べる方法と単語から調べる方法を学ぶ）
3	講義教室	並木	授業ノート①	学習・授業ノート（授業ノートに書くべき内容を学び、各自の授業ノートの利点などを検討しあう）
4	講義教室	並木	授業ノート②	学習・授業ノートの工夫についての確認（前回の授業を基に自分のノートをどのように工夫したのか、その理由と、効果について話し合う）
5	講義教室	並木	要点をまとめて書く	学生便覧を基に、学則に関する内容を調べ、要点を書く
6	講義教室	並木	レポートとは何か	一般的なレポートの要件、書式などを学ぶ
7	講義教室	並木	表と図	表で表されること、図で表されることを学び、実際に書いてみる
8	講義教室	並木	身体の運動方向を体で表現する	運動方向とそれを用いる日常的な動作を結び付け、実際に動いてみる
9	講義教室	並木	文章の要約	症例文を用いて、分からないことを調べて、短くまとめる
10	講義教室	並木	ハラスメント	学習環境でのハラスメントについて検討し被害者・加害者にならないための方法を学び、検討する
11	講義教室	杉本	ストレスマネジメント	自分自身のストレスマネジメント
12	講義教室	並木	実習とは 作業療法学生としての外見	実習の目的、信頼されるための実習時の身だしなみを学ぶ
13	講義教室	並木	作業療法倫理	日本作業療法士協会の定める倫理要項を基に、守らなければならないことを学ぶ
14	講義教室	並木	実習準備	実習前に実習施設へかける電話の内容を中心に、実習前に何を準備しておくかを学ぶ
15	講義教室	並木	作業療法士になるために何を学ぶのか	前期を通し、作業療法士になるためにどのようなことを学ぶ必要があるかを話し合う

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー										
担当者氏名	村上 知也、江川 賢一、並木秀樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	I	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

私たちの生活を取り巻く「情報社会」の現状を理解し、正しい情報収集の方法、統計学を用いた情報の吟味、情報セキュリティ、さらに情報を取り扱う上でのマナーについて理解すること。

《テキスト》

指定なし。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《行動目標(SBOs)》

- 1) Google Classroomを利用できる。
- 2) 現代社会での「情報」の意義を説明できる。
- 3) 問題解決のための情報収集ができる。
- 4) 統計学を用いて情報を吟味できる。
- 5) 情報を取り扱う上でのセキュリティやマナーに配慮できる。

《学生の留意点》

情報社会の中で、医療分野へのデジタル技術の活用や進展が急速に拡大しています。本科目は、基本的な情報に関する知識から情報処理のための基本的統計学を習得し、専門分野へ応用することを目指した科目です。4回以降はオンデマンド型授業になります。各回の受講に際し十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における中小企業診断士、スポーツ科学の研究者、理学療法士としての実務経験を授業内容に活かした科目としている。

《成績評価の方法》

各回の課題で評価する (100%)

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	並木	情報リテラシー①	Google Classroomの使い方
2	講義教室	並木	情報リテラシー②	正しい情報を得る
3	講義教室	並木	情報リテラシー③	作業療法士と情報の守秘義務
4	オンデマンド	村上	情報力とは	情報力とは (村上)
5	オンデマンド	村上	数字を読む力～数字に騙されないために～	数字を読む力 (村上)
6	オンデマンド	村上	今どきのIT①	AIの活用について～その他最近のデジタル活用 (村上)
7	オンデマンド	村上	今どきのIT②	SNS, 情報マナー, セキュリティ等について (村上)
8	オンデマンド	村上	情報収集と整理力	アナログとデジタルでの収集, フレームワーク (村上)
9	オンデマンド	村上	思考力	思考法の種類と実践 (村上)
10	オンデマンド	江川	統計学①	医療統計の基礎 (江川)
11	オンデマンド	江川	統計学②	情報の整理: データの種類 (江川)
12	オンデマンド	江川	統計学③	グラフの活用: 分布を調べる (江川)
13	オンデマンド	江川	統計学④	記述統計: 特徴をを明らかにする (江川)
14	オンデマンド	江川	統計学⑤	推測統計: 予測する (江川)
15	オンデマンド	江川	統計学⑥	検定と推定: データをよりよく理解する (江川)

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	人間発達学										
担当者氏名	松本 実祐										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な領域ごとの各発達段階における特徴を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布します

《参考図書》

授業の中で資料を配布します

《行動目標 (SB0s)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分け説明できる
2. 発達障害について説明できる
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる

《学生の留意点》

積極的に授業に参加してください。本科目各回の受講について、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

臨床心理士としての実務経験を活かした科目としている。

《成績評価の方法》

期末試験と課題を併せて評価する

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	オンデマンド	松本	オリエンテーション 生涯発達	オリエンテーション 生涯発達
2	オンデマンド	松本	発達課題	発達課題
3	オンデマンド	松本	運動の発達	運動の発達
4	オンデマンド	松本	言語・感情	言語・感情
5	オンデマンド	松本	知覚・記憶	知覚・記憶
6	オンデマンド	松本	学習	学習
7	オンデマンド	松本	認知 ピアジェの認知発達理論	認知 ピアジェの認知発達理論
8	オンデマンド	松本	発達障害①	発達障害①
9	オンデマンド	松本	発達障害②	発達障害②
10	オンデマンド	松本	発達を見立てる	発達を見立てる
11	オンデマンド	松本	段階理論	フロイトの心理学的発達段階・マズローの欲求階層説・エリクソンの心理社会的発達段階理論
12	オンデマンド	松本	愛着	愛着
13	オンデマンド	松本	社会で生きるということ①	乳幼児期～児童・青年期
14	オンデマンド	松本	社会で生きるということ②	壮年・中年期
15	オンデマンド	松本	社会で生きるということ③	老年期

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論										
担当者氏名	柴田 真実										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									○
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

効果的に作業療法を実施するために専門職として相応しいコミュニケーション方法を身につける

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

日本保険衛生教育学監修；PT・OTのための実用・実践コミュニケーション術 金原出版 2024 山口美和；PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド第3版 医学書院 2024

《行動目標(SBOs)》

1. TPOに合わせた装いができる
2. 社会人として相応しい挨拶ができる
3. 社会人として相応しい丁寧な言葉づかいで会話ができる
4. 学内・実習施設・社会のルールを遵守できる
5. 医療職に必要なコミュニケーション技能について説明できる
6. 自己のコミュニケーションにおける傾向を把握し必要な修正ができる

《学生の留意点》

社会人・医療専門職としての態度を身につけていくための基礎となる科目です。学内、実習地等で求められる立ち居振る舞いを含めた責任ある行動を身につけられるよう積極的な参加と行動変容を期待します。演習を多く含みます。うまく行えている他者の様子を観察し真似るところからはじめてください。見て真似ることは「モデリング」と言って立派な学習方法の一つです。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

授業内で行う実技30% 期末筆記試験40% 提出課題20% 発表課題10% で評価する

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	柴田	オリエンテーション	授業の全体説明 アイスブレイク 高等教育について
2	講義教室	柴田	自己理解①	自己の適職・態度・性格傾向・コミュニケーションのとり方などを各種テストなどのツールを利用して分析し、自己理解を深める。
3	講義教室	柴田	自己理解②	他者から見た自分を知り、自己像とのギャップを理解する。理想的な自己像に近づくための方法を検討する。
4	講義教室	柴田	社会人マナー①	社会人として求められることの理解と習得① 身だしなみ・挨拶・丁寧語
5	講義教室	柴田	社会人マナー②	社会人として求められることの理解と習得② 報連相・笑顔・ルール遵守
6	講義教室	柴田	社会人マナー③	社会人として求められることの理解と習得③ ハラスメントについて
7	講義教室	柴田	カスタマージャーニー	顧客が目的達成のための過程で体験する心情を予想し、サービス提供者はどのように振舞うべきか検討する。これにより医療職がどのように振舞うべきか考察を深める。
8	講義教室	柴田	作業療法学生・作業療法士として必要な態度①	学習課程のそれぞれの場面でのコミュニケーションの目的と有効な方法を検討し、これからの学生生活場面に備える。
9	講義教室	柴田	作業療法学生・作業療法士として必要な態度②	作業療法士の対象者像を知る。対象者によってどのようなコミュニケーションをとる必要があるのか教授を受け、求められるコミュニケーションの在り方を検討する。
10	講義教室	柴田	患者エクスペリエンスと目指す作業療法士像	患者が治療を受ける過程で体験する心情を考察し、医療提供者はどのように振舞うべきか検討する。これにより求められる作業療法士像を具体的に作る。
11	講義教室	柴田	コミュニケーションスキル①	より良いコミュニケーションのための具体的技術を知り習得する。
12	講義教室	柴田	コミュニケーションスキル②	〃
13	実技教室	柴田	osce①	検査測定の被検者の体験から、作業療法士が対象者に対してどのように振舞うべきか考察する。また、実習先でのあいさつの仕方を演習し、自分の振る舞いを振り返り修正する。
14	実技教室	柴田	osce②	〃
15	講義教室	柴田	まとめ	14回の授業を振り返り各自まとめを行う。当日作成した資料は一部筆記テストで使用可能とする。

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	生命倫理学										
担当者氏名	柴田 真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

倫理的ジレンマを認識したうえで臨床上の判断をできるようになる為に倫理学についての基礎知識を身につける

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

宮坂道夫；医療倫理額の方法 医学書院 2016 赤林朗；入門医療倫理 勁草書房 2017 赤林朗；ケースブック医療倫理 2002 オギリマサホ；半径3メートルの倫理 産業編集センター2022 川原茂雄；どう生きるか18歳からの倫理 海象社 2024

《行動目標(SBOs)》

1. 倫理学とは何か、他の近接領域の学問との関係から説明できる
2. 倫理学の学問体系を説明できる
3. 各倫理理論の概要を説明できる
4. 倫理的ジレンマを明らかにして自分の判断を倫理的に説明することができる
5. OT協会の倫理綱領の内容を述べる事ができる

《学生の留意点》

倫理は耳慣れないものかもしれませんが、より良い医療を考えるためには大切なものです。皆さん自身のより良い生き方を考えるものにもなります。皆さんがより良い人生を歩めるよう、また良い職業人となるためにも、積極的に授業に参加し自己と対話することを期待します。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験75% 提出課題15% 発表課題10%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	柴田	オリエンテーション 倫理とは何か	道徳・哲学・宗教・思想・法律など倫理学との近接領域の学問との関係を説明する
2	講義教室	柴田	倫理学の全体像	倫理学の学問体系を説明しこれからの授業の方向性を示す
3	講義教室	柴田	倫理的ジレンマ	倫理が問題となるケースにはジレンマが存在する。倫理的ジレンマの内容を具体的に説明する
4	講義教室	柴田	社会問題と倫理①	ハンセン病やコロナなどの事例から倫理問題について検討する
5	講義教室	柴田	社会問題と倫理②	私宅監置の歴史や差別について学ぶことで倫理問題について検討する
6	講義教室	柴田	社会問題と倫理③	身の回りにある倫理的問題を調べてクラスで共有する
7	講義教室	柴田	医療の原則	ヒポクラテスの誓いや現代の医療4原則などを紹介する
8	講義教室	柴田	原則論	倫理問題の検討の仕方の一つとして原則論を紹介しその課題についても解説する
9	講義教室	柴田	手順論	倫理問題の検討の仕方の一つとして手順論を紹介しその課題についても解説する
10	講義教室	柴田	物語論	倫理問題の検討の仕方の一つとして物語論を紹介しその課題についても解説する
11	講義教室	柴田	倫理問題各論①	倫理問題について7～9回に解説した方法で検討する
12	講義教室	柴田	倫理問題各論②	倫理問題について7～10回に解説した方法で検討する
13	講義教室	柴田	倫理問題各論③	倫理問題について7～11回に解説した方法で検討する
14	講義教室	柴田	作業療法士協会倫理綱領	作業療法士協会の倫理綱領の内容を解説する
15	講義教室	柴田	まとめ	14回の授業を振り返り各自まとめを行う。当日作成した資料は一部筆記テストで使用可能とする。

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	現代社会と社会保障										
担当者氏名	渋川 智明										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

社会保障制度を構成する公的扶助、福祉、社会保険制度などの政策理念、機能など具体的施策の内容を理解するために、現代社会の少子高齢化や財政的課題について、英国など先進諸国制度とも比較・検証し、安定的な制度設計を考察する。

《テキスト》

棕野美智子・田中耕太郎：『はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ』。有斐閣アルマ。2026年（第23版）

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《行動目標(SBOs)》

- 1) 社会保障制度の柱である介護・医療保険・年金・雇用保険などの保険制度の枠組みを説明できる。
- 2) 公的扶助、児童福祉、障害福祉の制度設計の基礎になっている財政（税）と社会保険制度（保険料プラス税）の基盤的相連、現状を説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムを理解し、医療と介護の連携、直面している課題・問題を説明できる。

《学生の留意点》

テーマ内容について、テキスト、参考書及び関連資料・文献等を基に事前学習をする調査・分析作業を導入します。 各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

提出課題 100%

最終講義で課すレポートを中心に評価、1～14回の課題も評価の対象とします。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、社会保障制度に熟知した講師が担当し、その実務経験を生かした講義内容としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	渋川	ガイダンスー社会保障制度とは	欧米の現行社会保障制度の現状の中で、日本の社会保障制度の位置づけと、提供するサービスがどのように機能し、またどのような課題を抱えているのかを概説する。
2	講義教室	渋川	社会保障の概念整理	サービスの形態と社会のセーフティネットとしての社会保障の役割、日本国憲法、基本的人権に基づく扶助、社会福祉と社会保険の理論と定義の概念整理。
3	講義教室	渋川	社会保障の歴史	エリザベス1世の救貧論から産業革命を経てドイツの社会保険論へ、日本の社会保障における慈善、社会事業家論からナショナルミニマム、戦後の国民皆保険論まで。
4	講義教室	渋川	社会福祉①扶助	扶助（生活保護）、児童、母子、高齢者福祉。
5	講義教室	渋川	社会福祉②障害福祉	障害者総合支援制度と障害程度区分の導入、3障害の一体的支援。
6	講義教室	渋川	社会福祉③障害福祉	在宅、施設サービスの多様化と自立支援。措置制度による提供サービスから契約制度への移行と就労支援。
7	講義教室	渋川	公的医療保険制度①制度の概要	国民健康保険制度と被用者保険制度、保険者と被保険者のの概念整理。償還払い制度と診療報酬、給付と自己負担。
8	講義教室	渋川	公的医療保険制度②保険給付	保険適用の医療保険給付サービスと、保険外自由診療、混合診療。
9	講義教室	渋川	公的医療保険制度③医療提供体制	診療所と病院の機能分化と体系化。
10	講義教室	渋川	公的医療保険制度と公的介護保険制度の連携	カルテ開示、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン。訪問看護・リハビリ医療と介護の連携、地域包括ケア。
11	講義教室	渋川	公的介護保険制度①制度概要	保険者と被保険者の保険料。要介護認定制度。財政基盤の課題。
12	講義教室	渋川	公的介護保険制度②保険給付	施設・在宅、地域密着型介護保険給付サービスと、要支援者の総合支援。提供体制・事業者。
13	講義教室	渋川	公的年金制度①制度概要	保険者と被保険者。国民年金、厚生年金の仕組み。基礎年金の保険料と公費拠出。強制加入と猶予・免除制度。
14	講義教室	渋川	公的年金制度②老齢年金	老齢年金の支給開始と繰り上げ・繰り下げ支給、障害年金、遺族年金。給付と負担のバランスと賦課方式の課題。
15	講義教室	渋川	雇用保険、労働災害者保険とまとめ	派遣、非正規雇用と保険・補償。まとめとして、日本の社会保障制度の制度改革論争の検証。社会保障の安定的かつ持続的運営システムに関する提言と今後の展望。以上。

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰa										
担当者氏名	吉本 正美										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、喜びや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(G10)》

人体の正常な形態、構造および機能を理解するために、解剖学総論で解剖学記載上のきまりや人体の区分などを学び、人体の構造のうち、骨格系と筋系を学習する。

《テキスト》

桑本共之・黒澤美枝子・高橋研一・細谷安彦（編訳者）：
『トートラ人体の構造と機能、第5版』、丸善出版、平成31年（2019年）。

《参考図書》

・W. Platzer, 他著、平田幸男訳：『解剖学アトラス、第10版』、文光堂、2012年。
・野村 穰（編集）：『解剖学、第6版（標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野）』、医学書院、2024年。
・坂井建雄・松村謙児（監訳）：『プロメテウス解剖学アトラス、解剖学総論/運動器系』、医学書院、2016年。
・伊藤隆（原著）・高野廣子（改訂）：『解剖学講義、改訂3版』、南山堂、2012年。

《学生の留意点》

人体の正確な解剖学の知識を学び理解するために、授業を受けた日に復習するようにし、その日に復習できない場合は、次の授業までには必ず復習することを心掛ける。
解剖学用語（和名）を正確に書けるようにする。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を筆記試験により実施し、評価割合をそれぞれ50%として評価基準に基づいて評価する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	吉本	解剖学総論-1	解剖学用語（解剖学的位置、人体の軸と方向）、人体の区分と構成
2	講義教室	吉本	解剖学総論-2	人体の構成：細胞、組織、器官、器官系、個体
3	講義教室	吉本	骨格系：骨格系総論	骨の形態・構造・機能、骨の発生と成長、骨の連結
4	講義教室	吉本	骨格系各論-1	体幹の骨（脊柱、胸郭）
5	講義教室	吉本	骨格系各論-2	上肢の骨（上肢帯、自由上肢骨、上肢の骨の連結）
6	講義教室	吉本	骨格系各論-3	頭蓋の骨
7	講義教室	吉本	骨格系各論-4	下肢の骨（下肢帯、自由下肢骨、下肢の骨の連結）
8	講義教室	吉本	骨格系各論-5	下肢の骨、骨盤
9	講義教室	吉本	筋系：筋系総論-1	筋（骨格筋）の分類と作用、筋（骨格筋）の補助装置
10	講義教室	吉本	筋系総論-2	筋（骨格筋）の支配神経と血管系
11	講義教室	吉本	筋系総論-3	筋（骨格筋）の支配神経と血管系
12	講義教室	吉本	筋系各論-1	頭頸部の筋
13	講義教室	吉本	筋系各論-2	頭頸部の筋
14	講義教室	吉本	筋系各論-3	体幹の筋
15	講義教室	吉本	筋系各論-4	体幹の筋
16	講義教室	吉本	筋系各論-5	体幹の筋
17	講義教室	吉本	筋系各論-6	上肢の筋
18	講義教室	吉本	筋系各論-7	上肢の筋
19	講義教室	吉本	筋系各論-8	上肢の筋
20	講義教室	吉本	筋系各論-9	下肢の筋
21	講義教室	吉本	筋系各論-10	下肢の筋
22	講義教室	吉本	筋系各論-11	下肢の筋
23	講義教室	吉本	骨格系（1）	体幹の骨（脊柱、胸郭）
24	講義教室	吉本	骨格系（2）	体幹の骨（脊柱、胸郭）
25	講義教室	吉本	骨格系（3）	頭蓋の骨
26	講義教室	吉本	骨格系（4）	上肢の骨（上肢帯、自由上肢骨）
27	講義教室	吉本	骨格系（5）	上肢の骨（上肢帯、自由上肢骨）
28	講義教室	吉本	骨格系（6）	下肢の骨（下肢帯、自由下肢骨）
29	講義教室	吉本	骨格系（7）	下肢の骨（下肢帯、自由下肢骨）、骨盤
30	講義教室	吉本	骨格系（8）	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰb										
担当者氏名	吉本 正美										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態、構造および機能を理解するために、人体を構成する構造のうち、内臓の消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖系および内分泌系と感覚器系を学修する。

《テキスト》

桑本共之・黒澤美枝子・高橋研一・細谷安彦（編訳者）：
『トートラ人体の構造と機能、第5版』、丸善出版、平成31年（2019年）。

《参考図書》

・W. Platzer, 他著、平田幸男訳：『解剖学アトラス、第10版』、文光堂、2012年。
・野村 瑞（編集）：『解剖学、第6版（標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野）』、医学書院、2024年。
・伊藤隆（原著）、高野廣子（改訂）：『解剖学講義、改訂3版』、南山堂、2012年。

《行動目標(SBOs)》

1. 内臓を構成する消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖系および内分泌系と感覚器系について、各器官の構造と機能、人体における各器官の位置について説明できる。
2. 人体の発生（各器官系の発生）について、概略を説明できる。

《学生の留意点》

人体の正確な解剖学の知識を学び理解するために、授業を受けた日に復習するようにし、その日に復習できない場合は、次の授業までには必ず復習することを心掛ける。
解剖学用語（和名）を正確に書けるようにする。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を筆記試験により実施し、評価割合をそれぞれ50%として評価基準に基づいて評価する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	吉本	内臓器系総論-1	内臓器系の一般的構造と体内における配置
2	講義教室	吉本	内臓器系総論-2	内臓器系の一般的構造と体内における配置
3	講義教室	吉本	内臓器系各論-1	消化器系(中空性器官)
4	講義教室	吉本	内臓器系各論-2	消化器系(中空性器官)
5	講義教室	吉本	内臓器系各論-3	消化器系(実質性器官：付属臓)
6	講義教室	吉本	内臓器系各論-4	消化器系(実質性器官：付属臓)
7	講義教室	吉本	内臓器系各論-5	消化器系(実質性器官：付属臓、腹膜)
8	講義教室	吉本	内臓器系各論-6	循環器系（心臓、動脈系と静脈系）
9	講義教室	吉本	内臓器系各論-7	循環器系（動脈系と静脈系）
10	講義教室	吉本	内臓器系各論-8	循環器系（動脈系と静脈系、胎生期の循環系）
11	講義教室	吉本	内臓器系各論-9	循環器系（リンパ系）
12	講義教室	吉本	内臓器系各論-10	呼吸器系
13	講義教室	吉本	内臓器系各論-11	呼吸器系
14	講義教室	吉本	内臓器系各論-12	呼吸器系
15	講義教室	吉本	内臓器系各論-13	泌尿器系
16	講義教室	吉本	内臓器系各論-14	泌尿器系
17	講義教室	吉本	内臓器系各論-15	男性生殖系
18	講義教室	吉本	内臓器系各論-16	男性生殖系
19	講義教室	吉本	内臓器系各論-17	女性生殖系
20	講義教室	吉本	内臓器系各論-18	女性生殖系
21	講義教室	吉本	内臓器系各論-19	人体の発生（胚子の発生、器官系の発生）
22	講義教室	吉本	内臓器系各論-20	復習
23	講義教室	吉本	内臓器系各論-21	内分泌系
24	講義教室	吉本	内臓器系各論-22	内分泌系
25	講義教室	吉本	内臓器系各論-23	内分泌系
26	講義教室	吉本	感覚器系-1	感覚器系（眼：視覚器、耳：平衡感覚器）
27	講義教室	吉本	感覚器系-2	感覚器系（眼：視覚器、耳：平衡感覚器）
28	講義教室	吉本	感覚器系-3	感覚器系（味覚器、嗅覚器、皮膚と深部感覚の感覚受容器）
29	講義教室	吉本	感覚器系-4	感覚器系（味覚器、嗅覚器、皮膚と深部感覚の感覚受容器）
30	講義教室	吉本	内臓器系、感覚器系	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱa										
担当者氏名	吉本 正美										
授業方法	講義・演習	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標（GIO）》

人体の正常な形態、構造および機能を理解するために、神経系の正常な構造と位置、および機能を学修する。

《テキスト》

桑木共之・黒澤美枝子・高橋研一・細谷安彦（編訳者）：
『トートラ人体の構造と機能、第5版』、丸善出版、平成31年（2019年）。

《参考図書》

・W.Platzer, 他著, 平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版, 文光堂, 2012年。
・野村 嶺 編著：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学, 第6版』, 医学書院, 2024年。
・伊藤 隆（原著）, 高野 廣子（改訂）：『解剖学講義, 改訂3版』, 南山堂, 2012年。

《行動目標（SBOs）》

1. 神経系についての解剖学用語を説明できる。
2. 中枢神経系の基本構造と部位名を機能と関連付けて説明できる。
3. 末梢神経系の基本構造と部位名を機能と関連付けて説明できる。
4. 主な神経路（神経回路）について、その線維連絡と機能の概要を説明できる。
5. 神経系の発生を説明できる。

《学生の留意点》

人体の正確な解剖学の知識を学び理解するために、授業を受けた日に復習するようにし、その日に復習できない場合は、次の授業までには必ず復習することを心掛ける。
解剖学用語（和名）を正確に書けるようにする。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を筆記試験により実施し、評価割合をそれぞれ50%として評価基準に基づいて評価する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	吉本	神経系概論	神経系の区分、神経系の構成と組織学、神経系の発生、髄膜と脳室系
2	講義教室	吉本	中枢神経系-1	脊髄（外形と構造）
3	講義教室	吉本	中枢神経系-2	脳幹（延髄、橋、中脳、脳幹網様体）、小脳（外形と区分、内部構造）
4	講義教室	吉本	中枢神経系-3	間脳、大脳（終脳：大脳半球の外形・区分、大脳皮質・白質）
5	講義教室	吉本	中枢神経系-4	大脳（終脳）：大脳辺縁系、大脳基底核
6	講義教室	吉本	中枢神経系-5	中枢神経系の神経路（神経回路）：上行性神経路、下行性神経路
7	講義教室	吉本	末梢神経-1	脊髄神経（構成：頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）、脊髄神経の神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢、尾骨神経叢）
8	講義教室	吉本	末梢神経-2	脳神経-1（嗅神経、視神経、三叉神経）
9	講義教室	吉本	末梢神経-3	脳神経-2（動眼神経、滑車神経、外転神経）
10	講義教室	吉本	末梢神経-4	脳神経-3（顔面神経、内耳神経）
11	講義教室	吉本	末梢神経-5	脳神経-4（舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経）
12	講義教室	吉本	末梢神経-6	自律神経（交感神経、副交感神経、腸管神経系）
13	講義教室	吉本	感覚器系-1	感覚器系（眼：視覚器、耳：平衡聴覚器）
14	講義教室	吉本	感覚器系-2	感覚器系（嗅覚器、味覚器、皮膚と深部感覚の感覚受容器）
15	講義教室	吉本	中枢神経系、末梢神経系、感覚器系	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱb										
担当者氏名	吉本 正美										
授業方法	講義・演習	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標（GIO）》

人体の正常な形態、構造および機能を理解するするために、人体を構成する構造のうち、脈管系（循環器系）を学修する。

《テキスト》

桑木共之・黒澤美枝子・高橋研一・細谷安彦（編訳者）：
『トートラ人体の構造と機能、第5版』、丸善出版、平成31年（2019年）。

《参考図書》

・W. Platzner 他著、平田幸男 訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。
・野村 謙 編著：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第6版』、医学書院、2024年。
・伊藤隆（原著）、高野廣子（改訂）：『解剖学講義、改訂3版』、南山堂、2012年。

《行動目標（SBOs）》

1. 脈管系（循環器系）についての解剖学用語を説明できる。
2. 心臓の基本構造と機能の概要について説明できる。
3. 全身の主な脈管の名称と走行の概要を説明できる。

《学生の留意点》

人体の正確な解剖学の知識を学び理解するために、授業を受けた日に復習するようにし、その日に復習できない場合は、次の授業までには必ず復習することを心掛ける。
解剖学用語（和名）を正確に書けるようにする。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を筆記試験により実施し、評価割合をそれぞれ50%として評価基準に基づいて評価する。

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外来講師による講義形式で実施する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	吉本	脈管系（循環器系）概論	脈管系（循環器系）の組織学、血液循環とリンパ循環、体循環と小循環
2	講義教室	吉本	心臓	心臓の外形・構造、心臓の栄養血管、心筋組織と刺激伝導系
3	講義教室	吉本	動脈系-1	頭頸部の動脈（顔面・頭頸部の動脈、脳と脊髄の動脈）
4	講義教室	吉本	動脈系-2	体幹の動脈（胸腹部・骨盤の動脈）
5	講義教室	吉本	動脈系-3	上肢の動脈
6	講義教室	吉本	動脈系-4	下肢の動脈
7	講義教室	吉本	動脈系-5	腹部の動脈（消化器系の動脈、泌尿生殖器系の動脈）
8	講義教室	吉本	静脈系-1	頭頸部の静脈（顔面・頭頸部の静脈、脳と脊髄の静脈）
9	講義教室	吉本	静脈系-2	体幹の静脈（胸腹部・骨盤の静脈、奇静脈系）
10	講義教室	吉本	静脈系-3	上肢の静脈
11	講義教室	吉本	静脈系-4	下肢の静脈
12	講義教室	吉本	静脈系-5	腹部の静脈（消化器系の静脈：肝門脈系、泌尿生殖器系の静脈）
13	講義教室	吉本	リンパ系	リンパとリンパ管、リンパ節およびリンパ系器官と構造
14	講義教室	吉本	循環器系の発生と胎生期の循環器系	心臓の発生、鰓弓（咽頭弓）の発生と大血管の形成、胎生期の循環器系
15	講義教室	吉本	脈管系（循環器系）	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I a										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるため、「膜電位の発生機序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）及び末梢神経と効果器（筋）の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』。文光堂。2022

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート 第3版』。医歯薬出版。2017

他適宜紹介

《行動目標(SBOs)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる。
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる。
3. 身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）について説明できる。
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について関係づけることができる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	彦坂	概論	生理学概論, 神経生理学概論
2	講義教室	彦坂	細胞機能の基礎-1	細胞の環境, 構造・機能調節
3	講義教室	彦坂	細胞機能の基礎-2	細胞膜を通過する物質移動, 膜電位
4	講義教室	彦坂	活動電位, イオンチャネル	興奮発生, イオンチャネルの機能と構造
5	講義教室	彦坂	神経の基本・興奮伝導について	神経線維の構造, 跳躍伝導, 興奮伝導の特徴, 神経線維の種類
6	講義教室	彦坂	骨格筋について-1	筋の基本的構造, 筋節, 筋フィラメント, 調節タンパク質
7	講義教室	彦坂	骨格筋について-2	Ca ²⁺ による筋の収縮
8	講義教室	彦坂	興奮伝達と抑制	興奮の伝達と抑制, シナプスについて, 神経筋伝達, 神経筋接合部の伝達
9	講義教室	彦坂	自律神経系	自律神経系の構造と作用, 受容体
10	講義教室	彦坂	運動系-1	脊髄について
11	講義教室	彦坂	運動系-2	脳幹・小脳について
12	講義教室	彦坂	運動系-3	大脳基底核について
13	講義教室	彦坂	運動系-4	大脳皮質について
14	講義教室	彦坂	運動系-5	運動系の復習
15	講義教室	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅰb										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』。文光堂。2022年。

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』。2017年。

《行動目標(SBOs)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	彦坂	感覚生理学総論	感覚系神経システムの理解
2	講義教室	彦坂	体性感覚-1	体性感覚と受容器
3	講義教室	彦坂	体性感覚-2	体性感覚の伝導路・中継核、大脳皮質の体性感覚野
4	講義教室	彦坂	味覚、嗅覚	味覚(味覚系、嚥下)、嗅覚
5	講義教室	彦坂	聴覚	音の性質と聴力、伝音機構、内耳の音受容、聴覚の中核
6	講義教室	彦坂	前庭感覚	前庭器官の構造と機能、前庭系の神経回路
7	講義教室	彦坂	視覚-1	眼球の光学系、網膜の光受容(錐体と杆体)
8	講義教室	彦坂	視覚-2	感覚としての視覚、眼球運動
9	講義教室	彦坂	感覚器	感覚まとめ
10	講義教室	彦坂	脳の統合機能-1	大脳皮質の構造と機能
11	講義教室	彦坂	脳の統合機能-2	高次脳の機能
12	講義教室	彦坂	脳の統合機能-3	大脳辺縁系と視床下部
13	講義教室	彦坂	脳の統合機能-4	情動、行動を調節する伝達物質
14	講義教室	彦坂	脳の統合機能-5	脳波、覚醒と睡眠、学習
15	講義教室	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱa										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』。文光堂、2022年。

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』。2017年。

《行動目標(SBOs)》

1. 体液、血液の役割と機序を説明できる。
2. 心臓、血管の循環系の役割と機序を説明できる。
3. 生体防御機構免疫系の役割と機序を説明できる。
4. 呼吸・酸塩基平衡の役割と機序を説明できる。
5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	彦坂	体液	生命現象の本態、ホメオスタシス、体液の役割、体液の組成、ミネラルの働き、浮腫、脱水
2	講義教室	彦坂	血液-1	血液の成分と機能、血液の物理化学的特性、血液の成分、造血と造血因子
3	講義教室	彦坂	血液-2	赤血球の形状と機能、赤血球の新生と破壊、ヘモグロビンの働き、貧血
4	講義教室	彦坂	血液-3	白血球、血小板、血漿の形状と機能血液凝固作用、血小板血栓、二次血液凝固
5	講義教室	彦坂	血液-4	ABO式血液型、RH式血液型赤血球の凝集反応、凝集原（抗原）凝集素（抗体）
6	講義教室	彦坂	免疫	非特異的防御機構、特異的防御機構、免疫機構、リンパの働き、アレルギー
7	講義教室	彦坂	循環	体循環、肺循環、心臓の構造と機能、心筋の特性、刺激伝導系
8	講義教室	彦坂	心臓	心周期、心音、心拍数の調整、心臓の神経支配、心筋の電気現象と心電図
9	講義教室	彦坂	血管-1	動脈・静脈・毛細血管の特徴、静脈還流、冠状循環、脳循環、腹腔内循環
10	講義教室	彦坂	血管-2	血圧、微小循環、血管平滑筋、循環調節（ホルモン、局所的因子）、神経系調節、リンパ管の構造と機能
11	講義教室	彦坂	呼吸-1	換気の仕組み、気道、肺の構造と機能、呼吸筋と呼吸運動、肺胞換気量
12	講義教室	彦坂	呼吸-2	肺におけるガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸による体液の酸塩基平衡
13	講義教室	彦坂	呼吸-3	呼吸に影響を与える要因、呼吸調節作用、呼吸中枢、特殊環境の呼吸への影響
14	講義教室	彦坂	体温	体温の調節、体熱の産生、基礎代謝、体温の放散、体温調節中枢、日内変動
15	講義教室	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱb										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』、文光堂、2022年。

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』、2017年。

《行動目標 (SBOs)》

1. 消化・吸収の役割と機序を説明できる。
2. 栄養とエネルギーの役割と機序を説明できる。
3. 泌尿器系の役割と機序を説明できる。
4. 内分泌系の役割と機序を説明できる。
5. 生殖器系の役割と機序を説明できる。
6. 成長と老化の生理作用とその機序を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	彦坂	消化-1	口腔内消化、咀嚼・嚥下、唾液による消化、胃内消化、消化液の分泌作用
2	講義教室	彦坂	消化-2	小腸の構造と機能、小腸壁の構造、小腸の運動、小腸における消化
3	講義教室	彦坂	吸収	栄養素の分解と吸収、肝臓の構造と機能、膵臓の構造と機能、胆のう・胆道の機能
4	講義教室	彦坂	排便	大腸の構造と機能、大腸の運動と分泌、胃大腸反射、排便中枢、肛門括約筋の作用
5	講義教室	彦坂	代謝	物質代謝、炭水化物代謝、糖質代謝、タンパク質代謝、核酸代謝、ビタミン代謝
6	講義教室	彦坂	腎臓-1	腎臓の構造と機能、ネフロン構造、糸球体濾過、尿管の働き、再吸収と分泌
7	講義教室	彦坂	腎臓-2	腎機能の測定、腎血流量、腎血流量と糸球体濾過量、腎クリアランス
8	講義教室	彦坂	排尿	尿管・膀胱・尿道の構造と機能、膀胱と尿道の神経支配、蓄尿、排尿反射
9	講義教室	彦坂	復習1-8	
10	講義教室	彦坂	内分泌-1	ホルモンの化学的性質、ホルモンの受容器、ホルモンの機序、ホルモンの分泌調整
11	講義教室	彦坂	内分泌-2	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体中葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン
12	講義教室	彦坂	内分泌-3	甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質・糖質ホルモン
13	講義教室	彦坂	生殖	排卵、月経、妊娠のホルモン、精巣・精巣上体の構造と機能、勃起、射精
14	講義教室	彦坂	老化	細胞の寿命と再生、生理的老化の特徴、身体機能の加齢変化、死の3兆候
15	講義教室	彦坂	復習	

科目名	運動学Ⅰa										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

人が作業に取り組む在り様を身体運動の側面から説明できるようになるために、上肢帯と上肢の運動器の構造と機能に関する基本的知識を修得する。

《テキスト》

中村隆一、他著：『基礎運動学 第7版』、医歯薬出版株式会社、2025

《参考図書》

●坂井建雄（監訳）：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系（第3版）、医学書院、2017
●石川朗（総編集）：15レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト 運動学（第2版）、中山書店、2024
●Paul D. Neumann他監訳：筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医学書院、2018
他書籍については必要に応じて授業中に紹介する。

《学生の留意点》

解剖学の学修と同時に進行する科目です、両科目間の学修内容をうまく関係づけてください。「知識」に関する学習がほとんどであるために、理解したか？説明できるか？とSBOsに対し自問自答しながら学修を進めてください。グループ学習が多くなります。不明な点があった場合、自己学習はもちろん、疑問をためずにクラスメイトや担当教員に質問するなど、積極的に学修をすすめてください。Google class roomの使用ができるように、PC等ご準備ください。授業時に配布する「羅針盤」を参照し、自己学習を進めてください。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《行動目標(SBOs)》

1. 運動学が作業療法に必要な理由を説明できる。
2. 運動軸・運動面について説明できる。
3. 関節運動名を示すことができる。
4. 筋収縮の様態と具体例を説明できる。
5. 身体運動を力学の視点をを用いて説明できる。
6. 肩甲骨の構造と機能を説明できる。
7. 肩甲骨上腕関節の構造と機能を説明できる。
8. 肘関節・前腕の構造と機能を説明できる。
9. 手関節・手の構造と機能を説明できる。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

全ての授業が終了したのちに実施する期末テスト（筆記）50%、学習態度（提出期限の厳守）10%、授業期間中に行う小テスト40%の計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%未満である場合は、科目評価試験筆記試験（100%）の再試験該当者とする。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	オリエンテーション/作業療法と運動学	オリエンテーション/運動学と作業療法
2	講義教室	鈴木	身体運動の捉え方①	基本肢位p160/運動の面と軸p161
3	講義教室	鈴木	身体運動の捉え方②	骨と関節の運動p44/関節運動の構造と機能p67/関節の形状による分類p68/運動軸の数による分類p68/関節運動の表し方p71・p536-
4	講義教室	鈴木	身体運動の捉え方③	筋収縮の様態p84-/筋の働きp86-
5	講義教室	鈴木	上肢帯と上肢の運動①	上肢帯と上肢の骨格p214/胸鎖関節p216/肩鎖関節p217/肩関節（肩甲骨上腕関節）p218/肩甲骨郭関節p218
6	講義教室	鈴木	上肢帯と上肢の運動②	上肢帯と肩甲骨上腕関節の動きp219-（肩甲骨郭関節の運動p218/肩甲骨上腕関節の運動p219）
7	講義教室	鈴木	上肢帯と上肢の運動③	肩甲骨郭関節の運動と筋p219-
8	講義教室	鈴木	上肢帯と上肢の運動④	肩甲骨上腕関節の運動と筋p220-
9	講義教室	鈴木	上肢帯と上肢の運動⑤	上肢帯と上肢の運動の特性 肩甲骨上腕リズムp219/習慣的機能の逆転p223/関節包内運動p45
10	講義教室	鈴木	肘関節・前腕の運動①	肘関節と前腕の構造p224/肘関節と前腕の関節と靱帯p225：腕尺関節/腕橈関節/上橈尺関節/下橈尺関節/肘関節と前腕の運動p226/肘関節と前腕に作用する筋p227-
11	講義教室	鈴木	肘関節・前腕の運動②	肘関節と前腕に作用する筋p227-
12	講義教室	鈴木	手関節と手の運動①	手関節と手の運動p229/手の骨p229/手の関節と靱帯p230-：橈骨手根関節/手根間関節/手根中手関節 中手指節関節/指節間関節/腱鞘
13	講義教室	鈴木	手関節と手の運動②	手関節と手の筋p236-：母指球筋/小指球筋/中手筋/手のアーチ/把持動作/手の機能肢位
14	講義教室	鈴木	生体力学の基礎①	身体とてこp40 モーメントp31
15	講義教室	鈴木	まとめ	上肢帯・自由上肢の運動 まとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学 I b										
担当者氏名	鈴木 憲雄 / 柴田 真実										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

人が作業に取り組む在り様を身体運動の側面から説明できるようになるために、下肢帯・下肢・体幹・顔面、および姿勢に関する基本的な知識を修得する。

《テキスト》

中村隆一, 他著:『基礎運動学 第7版』, 医歯薬出版株式会社, 2025

《参考図書》

●坂井建雄 (監訳): プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 (第3版). 医学書院. 2017
 ●石川朗 (総編集): 15レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト 運動学 (第2版). 中山書店. 2024
 ●Paul D. Neumann他監訳: 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医学書院. 2018
 他書籍については必要に応じて授業中に紹介します。

《学生の留意点》

運動学 I-aおよび運動学演習に関連する科目となります。「知識」に関する学習であるために、理解したか?説明できるか?とSBOsに対して自問自答しながら学習を進めてください。不明な点があった場合、自己学習はもちろん、疑問をためずにクラスメイトや担当教員に質問するなど、積極的に学修をすすめてください。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、作業療法士が担当し、その実務経験を生かした内容である。

《行動目標 (SBOs)》

1. 下肢帯の構造と機能を説明できる
2. 股関節の既往増と機能を説明できる
3. 膝関節の構造と機能を説明できる
4. 足関節と足部の既往増と機能を説明できる
5. 脊柱の構造と機能を説明できる
6. 胸郭の構造と機能を説明できる
7. 顔面と頭部の構造と機能を説明できる
8. 立位姿勢の特徴を説明できる

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

各授業終了後に実施する小テストの結果40%, 期末試験50%, 提出物の期限内提出10%の計100%で評価する。合計60%以上を合格とする。60%に満たない場合、期末試験再試験(筆記試験100%)の対象者とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	下肢帯・下肢の構造と機能①	オリエンテーション/下肢帯と下肢の骨格p227/下肢帯と股関節の運動p228/股関節の構造的特徴p229/股関節の靱帯p250/股関節の動きp250-
2	講義教室	鈴木	下肢帯・下肢の構造と機能②	骨盤の運動: 前傾-後継/股関節に期待される運動と作用する筋p250-
3	講義教室	鈴木	股関節の構造と機能①	股関節に期待される運動と作用する筋p232-/屈曲-伸展, 外転-内転/外旋-内旋p232-233
4	講義教室	鈴木	股関節の構造と機能②	股関節の構造的特徴p256 膝関節の動きp258/膝関節に期待される関節運動と筋p258
5	講義教室	鈴木	股関節の構造と機能③	股関節に期待される運動と作用する筋p251-
6	講義教室	鈴木	膝関節の構造と機能①	膝関節の構造的特徴p239/膝関節の動きp258/膝関節の動きと靱帯 p 238-/膝関節に期待される関節運動p239
7	講義教室	鈴木	膝関節の構造と機能②	膝関節に期待される関節運動と筋p240-, p242
8	講義教室	鈴木	膝関節の構造と機能③	膝関節に期待される関節運動と筋p240-, p242
9	講義教室	鈴木	足関節と足の構造と機能①	足関節と足の関節の構造p242-, 距腿関節/距骨下関節/横足根関節/足根中足関節/中足間関節、中石趾関節/趾節間関節, 足のアーチ p 249-
10	講義教室	鈴木	足関節と足の構造と機能②	足関節・足部の関節運動と筋p244-p249, p 250, 足の変形 p 251-
11	講義教室	鈴木	姿勢について①	姿勢・構え・体位p299-/重心p176- 安静立位姿勢p327/アライメントp299- 立位姿勢の安定性p327-
12	講義教室	鈴木	姿勢について②	姿勢の分類p358- 動作と姿勢
13	講義教室	鈴木	姿勢について③	姿勢の分類p359- 動作と姿勢
14	講義教室	鈴木	姿勢の分析	様々な姿勢を各関節の肢位によって示す
15	講義教室	鈴木	動作分析に向けて	起立動作の分析 (演習) 運動学 II への連結 (観察による分析)

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

人が作業に取り組む在り様を身体運動の側面から説明できるようになるために、上肢帯と上肢の骨指標及び筋の位置を特定する触診に関する基本的な知識及び技術を身につける。

《テキスト》

青木隆明(監修):運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢[Web動画付]改訂第2版. メジカルビュー社. 2022

《参考図書》

●中村隆一,他著:『基礎運動学 第7版』, 医歯薬出版株式会社, 2025
 ●坂井建雄(監訳):プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系(第3版), 医学書院, 2017
 ●石川朗(総編集):15レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト 運動学(第2版), 中山書店, 2024
 ●Paul D. Neumann他監訳:筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医学書院, 2018
 必要であれば授業内で参考資料を提示します。

《学生の留意点》

本科目は触診技能を学ぶ科目です。技能を身につけるため学生間での実技演習、であると同時に臨床場面を想定したものになります。許諾を得たうえで動画撮影を学習結果として提出して委託という課題を課します。お分かりの通り、この授業のほとんどはペア学習となります。対人関係についても配慮して授業に参加してください。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《行動目標(SBOs)》

1. 上肢帯の骨指標をショック心により示すことができる。
2. 自由上肢の骨指標を触診により示すことができる。
3. 上肢帯の運動に作用する筋を触診により示すことができる。
4. 自由上肢の関節運動に作用する筋を触診により示すことができる。
5. 触診の方法について議論できる。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

骨・筋の触診技術に関する触診能力確認試験(実技試験50%)、筋の作用に関する小テスト(40%)、学習態度(課題の提出期限厳守10%)の計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%に満たなかった場合、触診能力確認試験(口頭試験を含む)100%の実技再試験該当者とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	科目オリエンテーション/骨指標の触診①/触診 導入	科目オリエンテーション/下肢帯と下肢の骨格p227/下肢帯と股関節の運動p228/股関節の構造的特徴p229/股関節の靭帯p250/股関節の動きp250-
2	実技教室	鈴木	骨指標の触診②	骨指標:肩甲骨, 胸骨, 鎖骨 肩甲骨 / 内側縁 / 外側縁 / 下角 / 上角 / 棘上窩 / 棘下窩 / 烏口突起 / 棘三角 / 肩峰角 / 肩峰 / 胸骨柄 / 胸骨体 / 剣状突起 / 胸骨角 / 胸鎖関節裂隙
3	実技教室	鈴木	骨指標の触診③	大結節 / 小結節 / 結節間溝 / 外側上顆 / 内側上顆 / 上腕骨小頭 / 肘頭 / 尺骨神経溝 / 尺骨神経 / 橈骨頭 / 橈骨茎状突起 / 尺骨頭 / リスター結節 / 豆状骨 / 三角骨 / 月状骨 / 舟状骨 / 大菱形骨 / 小菱形骨 / 有頭骨 / 有鈎骨 / CM関節裂隙 / MP関節裂隙 / PIP関節裂隙 / DIP関節裂隙
4	実技教室	鈴木	骨指標の触診④	グループ演習 触診動画の作成①
5	実技教室	鈴木	骨指標の触診⑤	グループ演習 触診動画の作成②
6	実技教室	鈴木	筋の触診①	上肢帯の運動に作用する筋の触診, 肩甲上腕関節の運動に作用する筋の触診, 三角筋(前中後), 大胸筋(鎖骨部・胸肋部), 烏口腕筋, 棘上筋, 棘下筋, 小円筋, 大円筋, 広背筋
7	実技教室	鈴木	筋の触診②	上肢帯の運動に作用する筋の触診 肩甲上腕関節の運動に作用する筋の触診 三角筋(前中後), 大胸筋(鎖骨部・胸肋部), 烏口腕筋, 棘上筋, 棘下筋, 小円筋, 大円筋, 広背筋
8	実技教室	鈴木	筋の触診③	肘関節・前腕の運動に作用する筋の触診 手関節の運動に作用する筋・腱の触診 FCU, FDS, FDP, PL, FCR, ECRL, ECRB, ED, ECU, EPL, EPB, Abd PL
9	実技教室	鈴木	筋の触診④	手関節・手指の運動に作用する筋・腱の触診 グループ演習 触診動画の作成①
10	実技教室	鈴木	筋の触診⑤	手関節・手指の運動に作用する筋・腱の触診 グループ演習 触診動画の作成②
11	実技教室	鈴木	筋の触診⑥	手関節・手指の運動に作用する筋・腱の触診 グループ演習 触診動画の作成③
12	実技教室	鈴木	筋の触診⑦	手関節・手指の運動に作用する筋・腱の触診 グループ演習 触診動画の作成④
13	実技教室	鈴木	筋の触診⑧	手関節・手指の運動に作用する筋・腱の触診 グループ演習 触診動画の作成⑤
14	実技教室	鈴木	骨・筋の触診	骨指標の触診 発表と議論
15	実技教室	鈴木	骨・筋の触診	骨指標の触診 発表と議論

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学										
担当者氏名	前島 早代、森 逸平										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

理学・作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ。

《テキスト》

『Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学』メジカルビュー社

《参考図書》

講義内で提示します。

《行動目標 (SBOs)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる
4. 各障害の特徴を列挙できる

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭において勉強して欲しい。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義にいかした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	森	1章1-1～3、2章2-2	リハビリテーション医学・画像診断
2	講義教室	森	4章4、4章5、 4章6-26、4章6-27	義肢・装具・車椅子、住環境と福祉用具・自助具、上肢切断、下肢切断
3	講義教室	前島	4章6-6	廃用症候群のリハビリテーション
4	講義教室	前島	5章5、5章6	ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル
5	講義教室	森	4章6-3(1)、 3章3-2	脳血管疾患、機能的帰結の予測
6	講義教室	森	4章6-14、4章6-21	失語症、高次脳機能障害
7	講義教室	前島	2章2-2、4章6-3(5)、 4章6-4(1)～(4)	電気生理的検査、末梢神経損傷、運動器リハビリテーション：下肢・体幹・上肢
8	講義教室	前島	4章6-25	脊髄損傷に対するリハビリテーション
9	講義教室	森	2章2-1、4章6-2	心電図、心大血管リハビリテーション
10	講義教室	森	2章2-2、4章6-5	呼吸機能検査、呼吸器リハビリテーション
11	講義教室	前島	4章6-3(2)～(4)、 4章6-12	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー、難病患者リハビリテーション
12	講義教室	前島	4章6-11	障害児（者）リハビリテーション
13	講義教室	森	3章3-1、3章3-4、 4章6-1	ICU、リスク管理、医療安全と感染対策
14	講義教室	森	4章6-23	スポーツ復帰のリハビリテーション
15	講義教室	前島	4章6-8、4章6-9、 5章7	腎臓、糖尿病、生活習慣病対策

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	精神医学概論										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

精神疾患のある対象者を的確に理解し、作業療法へ展開するために、精神疾患の現状、および主な精神障害および疾病の症状と、それに対する一般的な治療について学ぶ。

《テキスト》

上野 武治 編集：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版』。医学書院。

《参考図書》

尾崎 紀夫：『標準精神医学 第7版』。医学書院。2018
大熊 輝雄：『現代臨床精神医学改訂第12版』。金原出版株式会社。2013
上島 国利：精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために 改訂第5版。南江堂。2024

《行動目標 (SBOs)》

1. 精神医学の定義と関連領域について説明できる。
2. 精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる。
3. 精神障害の成因と分類について説明できる。
4. 精神障害おける症状について説明できる。
5. 主な疾患についての診断と評価、治療について説明できる。
6. 精神障害者が利用できる精神医療・福祉制度について説明できる。

《学生の留意点》

本授業は精神科における医学を学ぶ。つまり、精神疾患・障害・症状の理解や、作業療法に限定しない治療法、精神科領域における現状や国の対策などを学んでいくことになる。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験：80％ 課題：20％
上記の合計100％中、6割に満たない場合は再試験を行う

《実務経験のある教員による科目》

当該分野におけるセラピストとしての実務の経験を、精神医学の基礎という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	並木	総論	精神医学とは・精神障害の成因と分類
2	講義教室	並木	〃	精神機能の障害と代表的な精神症状
3	講義教室	並木	〃	精神障害の診断と評価
4	講義教室	並木	各論	脳器質性精神障害 認知症 てんかん
5	講義教室	並木	〃	症状性精神障害・精神作用物質
6	講義教室	並木	〃	統合失調症（1）
7	講義教室	並木	〃	統合失調症（2）
8	講義教室	並木	〃	気分（感情）障害
9	講義教室	並木	〃	神経症性障害（不安症・強迫症・解離症・身体症状症他）
10	講義教室	並木	〃	パーソナリティ障害
11	講義教室	並木	〃	摂食障害 睡眠障害
12	講義教室	並木	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
13	講義教室	並木	〃	精神障害者の雇用促進と就労支援
14	講義教室	並木	〃	精神保健・医療・福祉の制度
15	講義教室	並木	〃	薬物療法と非薬物療法

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学										
担当者氏名	杉村 夕										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、心理検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します。

《行動目標 (SBOs)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる。
2. 代表的な心理検査の種類を列挙し、その特徴と内容について説明できる。
3. 代表的な心理療法について列挙し、その特徴と内容について説明できる。

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。
積極的な授業参加を期待します。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験100 %

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	杉村	臨床心理学の定義と対象、基礎理論	臨床心理学の定義と対象、基礎理論（学習、記憶、行動）
2	講義教室	杉村	心理アセスメント	面接法、行動観察法、心理検査法
3	講義教室	杉村	心理検査法①	性格検査（質問紙法）
4	講義教室	杉村	心理検査法②	性格検査（投影法）
5	講義教室	杉村	心理検査法③	性格検査（作業検査法）
6	講義教室	杉村	心理検査法④	知能検査（ウェクスラー式、ビネー式）
7	講義教室	杉村	心理療法①	概論
8	講義教室	杉村	心理療法②	精神分析療法、防衛機制と転移
9	講義教室	杉村	心理療法③	クライアント中心療法
10	講義教室	杉村	心理療法④	行動療法、認知行動療法
11	講義教室	杉村	心理療法⑤	自律訓練法
12	講義教室	杉村	心理療法⑥	その他の心理療法
13	講義教室	杉村	ライフサイクルと心理的問題	ライフサイクルと心理的問題、障害者・高齢者の心理、障害の受容、その他
14	講義教室	杉村	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント
15	講義教室	杉村	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論										
担当者氏名	藤川 明代 浅沼 辰志、山田 千鶴子、柴田 真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

リハビリテーションを考究し続ける理学療法士になるために、リハビリテーションを概観し、特にパラスポーツを理解すること。

《テキスト》

久保俊一：『リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版』。医学書院。2022年。

《参考図書》

砂原茂一、「リハビリテーション」。岩波新書。1980。上田敏。「リハビリテーション 新しい生き方を創る医学」。ブルーバックス。1996。長谷川幹。「リハビリ 生きる力を引き出す」。岩波新書。2019。

《行動目標(SBOs)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる。
2. 医学的リハビリテーションの概要を理解できる。
3. 障害とは何か、理解できる。
4. リハビリテーションの多様性を説明できる。
5. パラスポーツの概要を理解できる

《学生の留意点》

理学療法士の業務の場であるリハビリテーションの理念，歴史，実際と未来について学び，療法士の主な対象者である患者，障がい者を全人的に理解することを学んでください。各回の受講に際し，十分な予習復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

各回の課題で評価する（100％）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	山田	オリエンテーション	導入，リハビリテーションの定義とその諸相
2	講義教室	外来講師	リハビリテーションの歴史と理念	リハビリテーションの歴史，理念，チームアプローチ
3	講義教室	外来講師	リハビリテーション医療	評価会議とゴール設定，リハビリテーションプログラム，クリニカルパス
4	講義教室	外来講師	医学的リハビリテーション	病期別リハビリステーション，地域リハビリテーション
5	講義教室	山田	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは
6	講義教室	浅沼	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士・作業療法士の役割と責任
7	実技教室	藤川	障害体験①	肢体不自由
8	実技教室	藤川	障害体験②	視覚障がい，聴覚・音声言語障がい
9	実技教室	藤川	パラスポーツ①	障がい者スポーツの意義と理念
10	実技教室	藤川	パラスポーツ②	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質
11	実技教室	藤川	パラスポーツ③	全国障がい者スポーツ大会の概要
12	実技教室	藤川	パラスポーツ④	実技
13	講義教室	柴田	障害とは	定義，歴史，国際生活機能分類，自立生活，ノーマライゼーション
14	講義教室	柴田	患者・障害者の心理・社会的側面①	患者障がい者の心理，障害受容
15	講義教室	柴田	患者・障害者の心理・社会的側面②	心理教育，自立支援・就労支援・両立支援

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	作業療法概論										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

作業療法の対象者の健康と幸福を作業を通して支えるという作業療法の本質を実践するのに必要となる作業療法の概念、成り立ち、作業療法の専門性、作業療法士が活躍している領域に関する現状についてその基本的知識を身につける。

《テキスト》

長島重信監修：作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 第3版 メジカルビュー社、2021

《参考図書》

- 砂原茂一：リハビリテーション、岩波新書、1980。
- 吉川ひろみ：作業療法の話をしよう、医学書院、2019。

その他書籍については必要に応じて授業中に紹介する。

《行動目標 (SBOs)》

1. 作業療法にもつイメージを示すことができる。
2. 治療手段としても作業について説明できる。
3. 作業療法が実践されている領域を説明できる。
4. 作業療法におけるパラダイムの変遷を説明できる。
5. 作業療法の定義について説明できる。
6. 作業療法の実践例を通して、作業療法の本質を議論できる。

《学生の留意点》

なぜ作業療法がこの世に必要とされたのかを共に考えるとともに作業療法領域全体を学ぶ授業となります。そのことは将来皆さんが作業療法の本質を踏まえた実践をするために必要となる基礎的な内容を学ぶことを意味します。また、本科目は本学院で学ぶすべての科目を結びつける内容であることを意味します。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

全ての授業が終了したのちに実施する期末テスト（筆記）50%、学習態度（提出期限の厳守）10%、授業期間中に行う小テスト40%の計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%未満である場合は、科目評価試験筆記試験（100%）の再試験該当者とする。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	オリエンテーション 作業療法とは①	授業オリエンテーション/作業療法の実践例/どのようなイメージか 自己主導型/グループ学習【グループ内共有と整理・報告準備】
2	講義教室	鈴木	作業療法とは②	作業療法とは何か【グループ内共有と整理・報告準備】
3	講義教室	鈴木	作業療法とは③ 前（前とは？）	作業療法とは何か【全体への報告・議論】
4	講義教室	鈴木	作業療法の定義 後（後とは？）	作業療法の名称p86、治療手段としての「作業」の意味p87ー、「作業療法の定義p92ー
5	講義教室	鈴木	作業療法の対象 ①	第4章 作業療法の対象p97ー身体障害p98ー精神障害p115ー、発達障害p125ー、高齢期p160ー【自己主導型/グループ学習】
6	講義教室	鈴木	作業療法の対象 ②	第6章 作業療法の対象と専門領域【グループ内共有と整理・報告準備】
7	講義教室	鈴木	作業療法の対象 ③	第6章 作業療法の対象と専門領域【全体への報告および議論】 その他（高次脳・地域・医療観察法・特別支援学校・職業リハ・学校養成施設）領域
8	講義教室	鈴木	作業療法の歴史①	Kielhofner, G. の歴史分析 総論
9	講義教室	鈴木	作業療法の歴史②	Kielhofner, G. の歴史分析 グループ学習
10	講義教室	鈴木	作業療法の歴史③	Kielhofner, G. の歴史分析 歴史分析/パラダイム/【全体への報告および議論】
11	講義教室	鈴木	作業療法の定義①	作業療法の定義 対象・目的・方法【自己主導型学習/グループ学習】
12	講義教室	鈴木	作業療法の定義②	作業療法の定義 対象・目的・方法【グループ内共有と整理・報告準備】
13	講義教室	鈴木	作業療法の定義③	作業療法の定義 対象・目的・方法【全体への報告および議論】
14	講義教室	鈴木	作業療法の成り立ち	作業療法の源流を探る
15	講義教室	鈴木	作業療法実践例/まとめ	作業療法実践例/ 本科目のまとめ

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業療法学										
担当者氏名	柴田真実										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

作業療法士を提供できるようになるために、作業に関する知識や作業分析の方法を身につけ作業の治療的活用を理解する

《テキスト》

長崎重信監修 浅沼辰志編集：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版 MEDICAL VIEW. 2021

《参考図書》

授業内で紹介する

《行動目標 (SBOs)》

1. 作業療法における作業の意味を説明できる。
2. 様々な作業の定義を説明できる
3. 包括的作業分析について説明できる
4. 包括的作業分析ができる。
5. 限定的作業分析について説明できる。
6. 各作業の治療的活用の例を列挙できる。

《学生の留意点》

作業をどのように理解し活用できるかは作業療法士になるためには必須事項です。作業療法士のアイデンティティにもかかわる内容を含みます。授業への積極的な参加・体験・思考を求めます。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験60%
提出課題30%
発表課題10%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	柴田	作業の概念	オリエンテーション 作業療法における作業の概念
2	講義教室	柴田	作業の定義	作業療法における作業の定義
3	講義教室	柴田	作業の種類	国際生活機能分類における作業 生活行為向上マネジメントにおける作業
4	講義教室	柴田	作業と歴史	作業の時間的変化
5	講義教室	柴田	作業と文化	作業と文化の関係について理解する
6	講義教室	柴田	作業と人と環境	作業と人と環境の関係について理解する
7	講義教室	柴田	包括的作業分	包括的作業分析について説明する グループワーク
8	講義教室	柴田	包括的作業分析	包括的作業分析 発表
9	講義教室	柴田	作業と諸理論①	人間作業モデルと作業
10	講義教室	柴田	作業と諸理論②	精神分析を作業
11	講義教室	柴田	作業と諸理論③	感覚統合と作業
12	講義教室	柴田	知慮への応用	臨床における作業の治療的応用について事例を通して理解する
13	講義教室	柴田	治療への応用	〃
14	講義教室	柴田	治療への応用	〃
15	講義教室	柴田	作業 まとめ	1 4 回分のまとめを行い授業を振りかえる

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習 I										
担当者氏名	野際 陽子										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

作業療法において、代表的な作業活動を用いるための基本的知識を理解する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

配布資料

《行動目標(SBOs)》

1. 作業療法における代表的な作業活動（手工芸系）の全工程を実施できる。
2. 作業分析の基礎となる項目を列挙できる。
3. 作業分析の基礎となる項目を説明できる。
4. 作業活動の治療的要素の例を列挙できる。

《学生の留意点》

本授業は、作業療法の特徴の一つである「作業を用いる」ことの基礎となる。「作業を用いて療法と成す」ための基礎として、各作業体験へ積極的な取り組みを望む。
実際に手工芸系の作業活動を実施するために、動きやすく汚れても構わない服装が望ましい。
本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

作品課題：60％（革細工：規則順守40％、期限提出20％）
レポート課題：40％（内容30％、期限提出10％）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	野際	絵画	オリエンテーションと絵画
2	実技教室	野際	絵画	模写（果物）
3	実技教室	野際	絵画	自分の手
4	実技教室	野際	絵画	自由画
5	実技教室	野際	革細工	作品の決定と裁断
6	実技教室	野際	革細工	スタンピングと染色技法
7	実技教室	野際	革細工	カシメとシングルステッチ
8	実技教室	野際	ネット手芸	デザイン及び模様決め
9	実技教室	野際	ネット手芸	ネット編み及びかがり留
10	実技教室	野際	簾細工	作品の決定と裁断
11	実技教室	野際	簾細工	底の組み方と編み方
12	実技教室	野際	簾細工	止め方
13	実技教室	野際	アンデルセン手芸	作品の決定とクルクル棒の作成
14	実技教室	野際	アンデルセン手芸	編み込みと始末、ニス塗り
15	実技教室	野際	グループ検討	手作業と作業療法のつながりについて

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅱ										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法的手段として構成的作業、非構成的作業の特徴と作業を用いるための基本的知識・技術・分析方法を習得する。

《テキスト》

古川宏：『つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル第2版』医歯薬出版株式会社、2018。

《参考図書》

- 1) 山根寛：『ひとと作業・作業活動 新版』三輪書店、2017。
日本作業療法士協会：『作業—その治療と応用 改訂第2版』協同医書出版社、2003。
- 2) 浅沼辰志他：『基礎作業学実習ガイド 作業活動のポイントを学ぶ』協同医書出版社、2008。

《行動目標(SBOs)》

1. 各作業活動において、基本的な知識を説明できる。
2. 各作業活動において、基本的な技術を実施できる。
3. 各作業活動において、一連の工程を実施できる。
4. 包括的作業分析を簡易的に実施できる。

《学生の留意点》

本授業は、構成的作業と非構成的作業の体験を通して作業の特徴等を学ぶ機会となる。
対象者に対し作業活動を適切に選択、指導するために、積極的な取り組みが必要である。
服装は動きやすく汚れてもよいもの、必要に応じてエプロン等を用意する。
授業はすべてOT室で行う。本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。
《実務経験のある教員による科目》
当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験：60% 課題：40% (各作品工程の遵守、作品の完成、分析課題の提出)
上記の合計100%中、6割に満たない場合は再試験を行う。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	並木	オリエンテーション 構成的作業①	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
2	実技教室	並木	構成的作業②	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
3	実技教室	並木	構成的作業③	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
4	実技教室	並木	構成的作業④	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
5	実技教室	並木	構成的作業⑤	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
6	実技教室	並木	構成的作業⑥	構成的作業を体験する。七宝焼きを経験し、簡易作業分析を行う。
7	実技教室	並木	構成的作業⑦	構成的作業を体験する。七宝焼きを経験し、簡易作業分析を行う。
8	実技教室	並木	非構成的作業①	非構成的作業を体験する。陶芸の土練りを経験し、簡易作業分析を行う。
9	実技教室	並木	非構成的作業②	非構成的作業を体験する。陶芸の玉づくりを経験し、簡易作業分析を行う。
10	実技教室	並木	非構成的作業③	非構成的作業を体験する。削りと高台つけを経験し、簡易作業分析を行う。
11	実技教室	並木	非構成的作業④	非構成的作業を体験する。陶芸のひもづくりを経験し、簡易作業分析を行う。
12	実技教室	並木	非構成的作業⑤	非構成的作業を体験する。削りと高台つけを経験し、簡易作業分析を行う。
13	実技教室	並木	非構成的作業⑥	非構成的作業を体験する。陶芸における施釉を経験し、簡易作業分析を行う。
14	実技教室	並木	治療に活かす①	作業活動と身体機能のつながり、片手動作などの工夫といった治療への活用法を学ぶ。
15	実技教室	並木	治療に活かす②	作業の包括的分析を体験する

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	作業療法評価学総論										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の対象者に対して、作業療法の本質を踏まえた作業療法を実施できるようになるために、作業療法評価の方向および位置づけや考え方、評価計画の立て方、各領域に共通して行う評価法の概略、あるいは作業療法全体の流れに関する知識を身につける。

《テキスト》

能登真一他編集：『標準作業療法学 作業療法評価学 第4版』. 医学書院. 2024 .

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《行動目標(SBOs)》

1. 作業療法と評価に関連する評価概要を説明できる。
2. 作業療法評価に関連する以下の用語について説明できる。
エビデンス、障害受容、ICFモデル、評価尺度、クリニカル・リーズニング、
3. 以下に示すゴールについて説明できる。
治療目標の設定、リハビリテーション・ゴール、長期目標、短期目標、治療・指導・援助の立案
4. International Classification of Functioningについて解説できる。
5. ICFモデルに基づく情報の分類について説明できる。
6. 作業療法の理論の違いが評価に用いる情報の違いを説明できる。

《学生の留意点》

作業療法の実践に1歩近づく授業となります。作業療法を実施する上で必要となる「評価」に関する知識を修得することになります。覚えなければならないことが山積みです。自己主導型学習とグループ学修をうまく組み合わせて確実に知識を身につけましょう。本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、作業療法士が担当し、その実務経験を生かした内容である。

《成績評価の方法》

全ての授業が終了したのちに実施する科目評価試験（筆記）50%、学習態度（提出期限の厳守）10%、授業中に行う小テスト40%の計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%未満である場合は、筆記試験（100%）による再試験該当者とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	作業療法と評価	オリエンテーション 作業療法の過程 実践過程 評価とは 作業療法と評価 エビデンス 実践例
2	講義教室	鈴木	障害受容とラポール形成	対象者の心理的理解 障害受容（p12）
3	講義教室	鈴木	情報収集について	作業療法実践過程 ICFモデル 情報収集
4	講義教室	鈴木	評価について①	評価の目的、2つの評価とそれぞれの目的（p4）、初期評価の目的、評価の実施場所、実施場所ごとの評価の主眼、実施場所ごとの評価の項目
5	講義教室	鈴木	評価について②	評価を実施する際の原則、評価の手段（測定・検査・試験・観察）、評価の手段の種類
6	講義教室	鈴木	評価について③	評価尺度（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度）、信頼性と妥当性（p17-）
7	講義教室	鈴木	評価について④ 臨床推論概論	評価実施上の留意点、データで残すことの重要性、問題点と利点の抽出、統合と解釈、クリニカル・リーズニングの種類
8	講義教室	鈴木	評価について⑤	治療目標の設定、リハビリテーション・ゴール、長期目標、短期目標、治療・指導・援助の立案に必要な論理的思考、治療メカニズム
9	講義教室	鈴木	評価について⑥	再評価と効果判定（p23-）
10	講義教室	鈴木	臨床推論	クリニカル・リーズニング、科学的・物語的・倫理的・实际的・相互交流的・リーズニング（作業療法・リーズニングの教科書 MEDICAL VIEW参照）
11	講義教室	鈴木	情報の整理について	手段 情報の種類 具体的な評価項目、ICIDHからICFへ（p5） ICFの構成要素
12	講義教室	鈴木	ICFを用いた医療情報の整理①	ICFを用いた整理① 事例報告を通して 【自己主導型学習/グループ学修】
13	講義教室	鈴木	ICFを用いた医療情報の整理②	ICFを用いた整理の仕方② 【グループ内共有/報告準備】
14	講義教室	鈴木	情報収集・評価について	ICFを用いた整理の仕方③ もしも使用する理論・モデルを変えた場合は… 【全体報告/議論】
15	講義教室	鈴木	情報収集・評価について	まとめ 対象者の違いと収集する情報の違い 多職種と共通の情報と作業療法独特の情報 議論

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の対象者に対して、作業療法の本質を踏まえた作業療法を実施できるようになるために、作業療法評価の方向および位置づけや考え方、評価計画の立て方、各領域に共通して行う評価法の概略、あるいは作業療法全体の流れに関する知識を身につける。

《テキスト》

能登真一他編集：『標準作業療法学 作業療法評価学 第4版』. 医学書院. 2024 .

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《行動目標(SBOs)》

1. バイタルサインの測定に必要な基本的知識を示すことができる。
2. 意識レベルをJCS/GCSに従い示すことができる。
3. 学生間で関節可動域テストを実施できる。
4. 学生間で深部腱反射を実施することができる。
5. 学生間で表在覚検査を実施することができる。
6. 筋力テストの評定原則を示すことができる。
7. HDS-RとMMSEについて説明できる。
8. 機能障害とADL動作の関係について説明できる。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

全ての授業が終了したのちに実施する科目評価試験（筆記）50%、検査測定に関する実技試験（実技試験40%）、学習態度（提出期限の厳守）10%の合計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%未満である場合は、実技試験（実技試験、口頭試問含む100%）による再試験該当者とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	作業療法と評価	授業オリエンテーション/作業療法評価とは
2	講義教室	鈴木	障害受容とラポール形成	バイタルサイン（血圧・脈拍・呼吸・Anderson基準/土井の変法）
3	講義教室	鈴木	情報収集について	意識レベル（JCS・GCS）
4	実技教室	鈴木	関節可動域測定①	関節可動域測定（意義と目的、基礎知識、測定手順）肩甲帯・上肢（肩甲帯・肩関節・肘関節）
5	実技教室	鈴木	関節可動域測定②	関節可動域測定（意義と目的、基礎知識、測定手順）肩甲帯・上肢（肩甲帯・肩関節・肘関節）
6	実技教室	鈴木	関節可動域測定③	上肢（肩甲帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節）
7	実技教室	鈴木	関節可動域測定④	上肢（肩甲帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節）
8	実技教室	鈴木	関節可動域測定⑤	下肢（股関節・膝関節・足関節）
9	講義教室	鈴木	腱反射/病的反射	腱反射/病的反射
10	講義教室	鈴木	感覚・知覚検査	感覚・知覚検査（意義と目的、温度覚・痛覚、触覚・圧覚・識別覚・振動覚）
11	講義教室	鈴木	筋力検査	筋力検査（意義と目的、筋力検査の基礎知識、検査方法）
12	実技教室	鈴木	徒手筋力検査	徒手筋力検査法
13	実技教室	鈴木	徒手筋力検査	HDS-R（p 425）/MMSE（p 424）
14	講義教室	鈴木	動作の分析	動作との関係
15	講義教室	鈴木	作業と運動	作業療法と身体機能の評価の関係、

《学生の留意点》

作業療法の実践に1歩近づく授業となります。作業療法を実施する上で必要となる「評価」に関する知識を修得することになります。覚えなければならないことが山積みです。自己主導型学習とグループ学修をうまく組み合わせ確実に知識を身につけましょう。本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、作業療法士が担当し、その実務経験を生かした内容である。

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	精神神経系作業療法評価学										
担当者氏名	野際 陽子										
授業方法	講義	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

作業療法評価できるために、作業活動を用いた評価の基本的知識・技術を習得する。

《テキスト》

長崎重信他：『作業療法ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法第3版』メディカルビュー社、2021

《参考図書》

配布資料

《行動目標(SBOs)》

1. 作業活動を用いた評価の視点について説明できる。
2. 作業活動を用いた評価の方法を説明できる。
3. 作業活動を用いた各評価を一部実施できる。
4. 記録の意義、形式について、説明できる。
5. 記録を一部実施できる。

《学生の留意点》

本授業は、「作業を用いた評価」の基礎を学び、領域を問わずに作業活動を用いて対象者を評価する基礎となる、評価に作業活動を用いる特性や視点を学習する。
尚、本授業は自己を客観視する機会が含まれ、作業療法の特徴の一つである「the therapeutic use of the self」を考える機会となる。
本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内の演習で活かした授業としている。

《成績評価の方法》

筆記試験：85%、積極性：15%（小課題及び質疑応答）

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	野際	評価とは何か（作業活動を用いた評価の概要①）	オリエンテーション、作業療法における評価とは何か、なぜ作業活動を用いて評価をするのか、その意義と目的を学習する。
2	講義教室	野際	評価とは何か（作業活動を用いた評価の概要②）	作業と治療の同時並行性、作業を用いた評価の構造、EBOTのための評価について、作業体験を通して学習する。
3	実技教室	野際	観察法を用いた評価①	観察の構造、verbalとnonverbalについて、観察の種類、観察演習を通して学習する。
4	実技教室	野際	観察法を用いた評価②	観察の対象と場面、多眼的観察、観察の妥当性・信頼性・倫理性、観察演習を通して学習する。
5	実技教室	野際	作業遂行を用いた評価	グループである作業をしながら、お互いの作業遂行を観察してみる。
6	実技教室	野際	精神障害領域の観察評価	精神障害領域における観察の留意点、観察ポイント、観察の焦点化、印象の取り扱いについて学習する。
7	実技教室	野際	面接を用いた評価①	面接の意義と目的は何か、構造化面接と非構造化面接の特徴の違い、位置関係の使い方について学習する。インテーク面接とは何か、実践を通して学ぶ。
8	実技教室	野際	面接を用いた評価②	情報収集面接とは何か、実践を通して学ぶ。
9	実技教室	野際	面接を用いた評価③	作業面接とは何か、実践を通して学ぶ。
10	講義教室	野際	精神障害領域の面接評価	精神障害領域における面接の留意点、面接環境、転移、共感と傾聴、沈黙などを学習する。
11	講義教室	野際	記録の目的、様式、注意点	記録の目的と形式、注意点、SOAP・デイリーノートの記録法、観察と面接の記録、作業療法の記録には何を書くべきかについて学習する。
12	講義教室	野際	各種評価、検査、尺度①	PANSS、SDS、BDI-II、HAM-D、SMSF
13	講義教室	野際	各種評価、検査、尺度②	Bacs-J、LASMI、Rehab、生活記録表
14	実技教室	野際	集団を用いた評価①	集団の特徴、構造、種類、治療因子などについて学習する。
15	実技教室	野際	集団を用いた評価②	集団を用いた評価の視点について学習する。

《専門分野 地域作業療法学》

科目名	地域作業療法学Ⅰ										
担当者氏名	柴田 真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の仕事の領域を理解するために作業療法実施の根拠となる法令に関する知識を身につけ、地域作業療法へのキャリアチェンジの機会や作業療法実践の内容を知る

《テキスト》

徳永千尋・田村幸司編集；作業療法学ゴールドマスター地域作業療法学 メジカルビュー社 2023

《参考図書》

授業内で提示する

《行動目標(SBOs)》

1. 作業療法の根拠となる法令の概要、制度について説明できる
2. 各種サービスの内容を説明できる
3. 医療以外での作業療法実践について例を挙げ地域作業療法について説明できる
4. 医療以外の作業療法の仕事へのキャリアチェンジについて理解する

《学生の留意点》

外来講師に多くの授業を依頼し実際の活躍の様子をお聞きます。どのような経緯で地域で働くことにしたのか、地域での作業療法は医療とどのように異なるのか、やりがいや苦勞も含めて生の声を聴く貴重な機会です。内容をきちんと理解できるよう各種法令の知識を身につけ、施設内容などの予習を十分おこなうように。＊授業の順番が入れ替わることがあります。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

提出課題45％ 筆記試験55％

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	柴田	オリエンテーション 地域作業療法の枠組み	地域作業療法の枠組み並びに地域が何を意味しているかについて説明する
2	講義教室	柴田	社会保障制度	医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、児童福祉法の概制と各種サービスについて説明する
3	講義教室	柴田	〃	〃
4	講義教室	柴田	包括支援センター 予習	包括支援センターの役割や作業療法士とのかかわりなどについて調べ学習を行う
5	講義教室	小金井市福祉保健部介護福祉	包括支援センター 実践	包括支援センターの仕事内容を知る
6	講義教室	柴田	介護老人保健施設 予習	介護老人保健施設の役割や作業療法士の仕事について調べ学習をする
7	講義教室	石井	介護老人保健施設 実践	介護老人保健施設で活躍する作業療法士の仕事内容を知る
8	講義教室	柴田	訪問作業療法 予習	訪問作業療法の役割や作業療法士の仕事について調べ学習をする
9	講義教室	外来	訪問作業療法 身障実践	訪問作業療法で活躍する作業療法士の仕事内容を知る
10	講義教室	戸田	訪問作業療法 精神実践	〃
11	講義教室	柴田	高次脳機能障害者支援センター 予習	高次脳機能障害者支援センターの役割や作業療法士の仕事について調べ学習をする
12	講義教室	駒井	高次脳機能障害者支援センター 実践	高次脳機能障害者支援センターで活躍する作業療法士の仕事内容を知る
13	講義教室	柴田	児童発達支援センター 予習	児童発達支援センターの役割や作業療法士の仕事について調べ学習をする
14	講義教室	小林	児童発達支援センター 実践	児童発達支援センターで活躍する作業療法士の仕事内容を知る
15	講義教室	柴田	まとめ	14回の授業を振り返り各自まとめを行う。

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	実習	単位数	1	回数	-	時間数	45	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の見学を通して、求められる職業人・医療人並びに作業療法学生としての態度や行動を学習し、作業療法の役割・仕事・業務について理解を深める

《テキスト》

本校が作成した実習の手引き

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《行動目標(SBOs)》

1. ルール、約束を守ることができる
2. スタッフに対し、適切な言葉遣いと態度をとることができる
3. 守秘義務を厳守することができる
4. 医療人としての身だしなみを整えることができる
5. リスク管理を含む、対象者への配慮ある行動・態度をとることができる
6. 必要なこと、不明なことについて質問・確認をすることができる
7. 目的をもって観察し、観察したことを報告することができる
8. 実習施設・部署の目的・役割・業務について説明できる

《学生の留意点》

見学時は目的意識、問題意識を持ち見学に臨むこと。初めての施設に何うので、事前の準備を行い病院・施設で求められる基本的な言動、態度は身に着けてから見学に行くようにすること。

《期末試験実施について》

実施しない

《実務経験のある教員による科目》

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

当該分野における作業療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《成績評価の方法》

実習指導者による4領域の臨床見学実習指導報告書による評価と、学院で実施する実習後セミナーを総合して学院が決定する。評定は「合」「否」の2段階で行う。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実習	並木	臨床見学（精神領域）	施設の特徴および作業療法の役割を知り、求められる態度をとる
2	実習	並木	臨床見学（身体領域）	施設の特徴および作業療法の役割を知り、求められる態度をとる
3	実習	並木	臨床見学（発達領域）	施設の特徴および作業療法の役割を知り、求められる態度をとる
4	実習	並木	臨床見学（高齢領域）	施設の特徴および作業療法の役割を知り、求められる態度をとる
5	実習後 セミナー	並木	実習後セミナー	セミナーで実習の情報共有、報告ができる。
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ-A										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	実習	単位数	2	回数	-	時間数	90	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

精神領域における作業療法の実践および過程を理解する。また職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

本校が作成した実習の手引き

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《行動目標(SBOs)》

1. 職業人としての適切な態度や行動をとることができる
2. 精神領域において対象者と望ましい関わり方（観察・面接）ができる
3. 精神領域の対象者についてICFの概念を用いて説明できる
4. 精神領域における実際の作業療法の専門性を説明できる
5. 記録・報告を実施できる

《学生の留意点》

受け身ではなく、自分から知ろう、学ぼうという姿勢を常に持ち続け
て実習に臨んでください。
精神科領域の対象者と直接かかわれる貴重な経験です。実習施設対象
者への感謝の気持ちを持って臨んでください。

《期末試験実施について》

実施しない

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士として実務の経験を、作業療法実施という観点から実習内容に生かした科目としている。

《成績評価の方法》

実習指導者による臨床実習ⅡA（精神領域「観察・面接実習」）臨床実習指導報告書による評価と、学院で実施する実習後セミナーを総合して学院が決定する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実習	並木	オリエンテーション	実習施設の概要、作業療法部門についてのオリエンテーション
2	実習	並木	作業療法実践過程の経験	作業療法プログラムに参加し、対象者の観察、作業療法の実践場面の観察
3	実習	並木	作業療法実践過程の経験	対象者について理解を深める。
4	実習	並木	作業療法実践過程の経験	対象者と適切な距離を意識したかかわり方を見学・模倣する。
5	実習	並木	作業療法実践過程の経験	精神領域の作業療法の治療構造、作業活動の使い方を観察し理解する。
6	実習	並木	作業療法実践過程の経験	記録の書き方を見学、模倣する。
7	実習	並木	まとめ	まとめとして、目標行動が達成できたかを確認する。
8	実習後 セミナー	並木	実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	作業療法研究法										
担当者氏名	野際 陽子										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

臨床活動のまとめ及び研究が遂行できるようになるために、研究に必要な知識・技術を取得する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

配布資料

《行動目標(SBOs)》

1. 作業療法に必要な研究の重要性を説明できる。
2. 研究を遂行するために必要な知識を説明できる。
3. 各種研究方法の概要を説明できる。
4. 研究の結果を発表できる。

《学生の留意点》

臨床活動をまとめ、作業療法の発展を支える研究方法の概要を学習します。研究方法の種類、取り組み方や研究疑問、仮説設定なども学びます。講義形式ではありますが、参加型の授業になりますので、グループワーク等積極的に参加してください。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

発表80%、課題20%

《実務経験のある教員による科目》

当該研究分野の作業療法士としての実務経験を、作業療法研究法の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	野際	研究とは何か	研究の意義・研究の進め方
2	講義教室	学科教員	身体障害領域の研究	
3	講義教室	学科教員	身体障害領域の研究	
4	講義教室	野際	精神障害領域の研究	メンタルヘルスと食生活について
5	講義教室	野際	研究のテーマ	クリニカルクエスションとリサーチクエスション、リサーチクエスションの構造化
6	講義教室	野際	研究デザイン	質的研究、量的研究、介入研究など
7	講義教室	野際	文献検索	文献レビューの方法、Google Scholarなど検索エンジンの使い方
8	講義教室	野際	研究基礎統計	研究に必要な統計の基礎知識
9	講義教室	野際	研究基礎統計	研究に必要な統計の基礎知識
10	講義教室	野際	研究倫理	研究の倫理と管理について
11	講義教室	野際	研究の実践①	研究のテーマ決め、内容の組み立て、リサーチクエスション、プレゼンテーション
12	講義教室	野際	研究の実践②	研究の目的、研究の方法、文献レビュー
13	講義教室	野際	研究の実践③	研究の目的、研究の方法、文献レビュー
14	講義教室	野際	研究の実践④	発表資料の作成
15	講義教室	野際	研究報告	最終発表会

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅱ										
担当者氏名	鈴木 憲雄 / 福井 健太郎										
授業方法	講義	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

《テキスト》

中村隆一他：基礎運動学 第7版. 医歯薬出版株式会社. 2025

人が作業に取り組む在り様を動作を観察することにより捉えることができるようになるために、動作観察, 運動学習, 遂行分析の基礎となる知識・技能を身につける。

《参考図書》

必要に応じて授業内で紹介します。

《行動目標 (SBOs)》

1. 運動学Ⅱの内容が作業療法に必要な理由を説明できる。
2. 動作観察の方法を説明できる。
3. 動作のスクリーニングについて説明できる。
4. 運動発達について説明できる。
5. 運動学習に関連する内容を説明できる。
6. 遂行の質の分析に関する基本的知識を説明できる。

《学生の留意点》

運動学Ⅰa, Ⅰbで学習した内容を基礎として、動作観察, 動作学習, 遂行分析について学ぶことになる。実際に行うことが行われている中での観察を主として解釈・評定をすることになる。事前に配信される動画資料等を視聴し、己学習を進めながら、授業に参加していただきたい。本科目各回の受講の際, 十分な予習・復習を行うこと

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

当科目は、作業療法士が担当し、その実務経験を生かした内容である。

《成績評価の方法》

全ての授業が終了した後の筆記試験50%、実技試験40%、課題等の提出期限の厳守10%の合計100%にて評価する。60%以上で合格とし、60%に満たない場合は筆記試験による再試験100%の対象とする。実技試験はAMPSの試験用動画を採点・コメントしてもらい、科目担当者との評定・コメントの類似性を採点する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	科目オリエンテーション/運動・動作・行為	科目オリエンテーション/運動・動作・行為
2	実技教室	福井	動作の観察①	動作観察の方法①
3	実技教室	福井	動作の観察②	動作観察の方法②
4	実技教室	福井	動作の観察③	寝返り動作の動作観察
5	実技教室	福井	動作の観察④	起き上がり動作の動作観察
6	実技教室	福井	動作の観察⑤	代償運動
7	講義教室	鈴木	運動発達①	発達とは (p 423-) , 発達段階 (p 425) , 中枢神経系の発生と運動発達
8	講義教室	鈴木	運動発達②	胎児, 幼児期の運動発達 (p 431-) , 知覚運動機能
9	講義教室	鈴木	運動学習	練習と訓練 (p 479-) , 学習曲線, 練習の効果, 動機づけ, フィードバック, 訓練および練習の時間
10	実技教室	福井	異常歩行	中枢神経疾患による異常歩行,
11	講義教室	鈴木	運動学習	全体法と部分法
12	講義教室	鈴木	協調運動	協調運動障害, 評価
13	講義教室	鈴木	遂行分析①	作業的パフォーマンスの質/AMPS:Assessment of Motor and Process Skills
14	実技教室	鈴木	遂行分析②	Motor Skills:運動技能
15	実技教室	鈴木	遂行分析③	Process Skills:処理技能 (プロセス技能)

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	病理学概論										
担当者氏名	福井 謙二										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標（GIO）》

様々な疾患の特徴や原因について科学的な理解を深めるために、最低限必要な基本的医学用語と医学知識を身に着け、主な疾患の病態を組織像とともに学ぶ。

《テキスト》

指定なし。毎回授業内容に沿ったプリントを配布する。

《参考図書》

指定なし。

《行動目標（SBOs）》

1. 外因の生物的要因の説明、代表疾患、退行/進行性病変、各諸型、免疫に関与する因子/細胞や傷害疾患、代表的な感染症の種類/特徴を説明、列挙できる。
2. 代表的な腫瘍名、発生母組織との関係、悪性腫瘍の進展形式を説明できる。
3. 呼吸、消化、生殖器に発生する代表疾患、特徴を説明できる。
4. 脳出血・脳梗塞、くも膜下出血の原因、発生機序を説明できる。

《学生の留意点》

病理学とは何か、病理学を学ぶ意義は何かについて、それぞれが考えてほしい。講義内容の理解を深めるため、復習は確実に行ってください。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験100％（期末試験）

《実務経験のある教員による科目》

実務経験を有する医師が担当する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福井	病理学総論（1）	病理学とは何か 最近のトピックス
2	講義教室	福井	病理学総論（2）	細胞障害と適応、変性、代謝障害
3	講義教室	福井	病理学総論（3）	炎症
4	講義教室	福井	病理学総論（4）	免疫、膠原病
5	講義教室	福井	病理学総論（5）	感染症
6	講義教室	福井	病理学総論（6）	腫瘍
7	講義教室	福井	病理学各論（1）	呼吸器系の疾患1
8	講義教室	福井	病理学各論（1）	呼吸器系の疾患2
9	講義教室	福井	病理学各論（2）	消化器系の疾患1
10	講義教室	福井	病理学各論（2）	消化器系の疾患2
11	講義教室	福井	病理学各論（3）	生殖器系の疾患1
12	講義教室	福井	病理学各論（3）	生殖器系の疾患2
13	講義教室	福井	病理学各論（4）	脳・神経系の疾患1
14	講義教室	福井	病理学各論（4）	脳・神経系の疾患2
15	講義教室	福井	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学										
担当者氏名	山本 敏之										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

理学療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について広く学ぶ。

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』、南江堂、2017。

《参考図書》

《行動目標(SBOs)》

1. 脳神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経学的検査、画像検査などについて説明できる。
3. 脳神経内科領域の主な疾患について、その特徴を説明できる。

《学生の留意点》

脳神経内科の領域は覚えることがたくさんありますが、その知識は、臨床の現場で必ず必要になります。能率よく勉強しましょう。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	山本	総論1	神経解剖学の基礎/神経生理学の基礎
2	講義教室	山本	総論2	神経診断学：病歴の取り方、神経学的診察法
3	講義教室	山本	総論3	検査法：画像診断、電気生理学的検査、筋生検・神経生検、髄液検査
4	講義教室	山本	総論4	治療総論
5	講義教室	山本	症候学1	意識障害
6	講義教室	山本	症候学2	脳神経系
7	講義教室	山本	症候学3	運動系
8	講義教室	山本	症候学4	感覚系
9	講義教室	山本	症候学5	錐体外路症状、不随意運動
10	講義教室	山本	症候学6	運動失調
11	講義教室	山本	症候学7	歩行障害、自律神経系
12	講義教室	山本	症候学8	高次脳機能障害1：失語
13	講義教室	山本	症候学9	高次脳機能障害2：失行・失認
14	講義教室	山本	症候学10	脳血管障害1：脳血管の解剖、脳出血
15	講義教室	山本	各論1	脳血管障害2：脳梗塞、頭部外傷
16	講義教室	山本	各論2	変性疾患（1）パーキンソン病、パーキンソン症候群
17	講義教室	山本	各論3	変性疾患（2）脊髄小脳変性症
18	講義教室	山本	各論4	変性疾患（3）筋萎縮性側索硬化症
19	講義教室	山本	各論5	認知症疾患
20	講義教室	山本	各論6	中枢神経の脱髄疾患：多発性硬化症、視神経脊髄炎
21	講義教室	山本	各論7	末梢神経の脱髄疾患：ギランバレー症候群、慢性脱髄性炎症性ニューロパチー
22	講義教室	山本	各論8	ニューロパチー
23	講義教室	山本	各論9	筋疾患
24	講義教室	山本	各論10	神経筋接合部の疾患：重症筋無力症他
25	講義教室	山本	各論11	脊髄損傷
26	講義教室	山本	各論12	脳腫瘍/感染症/自律神経障害 他
27	講義教室	山本	各論13	全身疾患に伴う神経疾患/欠乏症/中毒
28	講義教室	山本	各論14	機能的疾患（てんかん、頭痛、めまい、睡眠障害）、嚥下障害
29	講義教室	山本	各論15	先天性異常、脳性麻痺
30	講義教室	山本	総括	試験に出る脳神経内科

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学										
担当者氏名	乗松 祐佐										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

整形外科の概念、および各種疾患について学ぶ。リハビリテーションに関わる専門職として、理解すべき整形外科疾患について学ぶ。

《テキスト》

松野丈夫：『標準整形外科学』第16版。医学書院

《参考図書》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション。羊土社。2012

《行動目標(SBOs)》

1. 整形外科各種疾患の病態生理、治療法などについて説明できる。
2. 整形外科各種疾患とリハビリテーションとのかかわりについて説明できる。

《学生の留意点》

本科目各回の受講に際し、予習および復習を十分に行うこと。積極的な参加を期待する。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	乗松	オリエンテーション	オリエンテーション、整形外科の基礎科学
2	講義教室	乗松	各論	整形外科診断学
3	講義教室	乗松	〃	整形外科治療学（保存療法、徒手療法）
4	講義教室	乗松	〃	関節疾患・骨関節感染症
5	講義教室	乗松	〃	骨・軟部腫瘍
6	講義教室	乗松	〃	筋疾患・末梢神経障害
7	講義教室	乗松	〃	代謝性骨疾患
8	講義教室	乗松	〃	上肢疾患
9	講義教室	乗松	〃	下肢疾患
10	講義教室	乗松	〃	脊椎疾患
11	講義教室	乗松	〃	外傷学総論
12	講義教室	乗松	〃	四肢外傷
13	講義教室	乗松	〃	脊椎外傷
14	講義教室	乗松	〃	整形外科リハビリテーション
15	講義教室	乗松	〃	作業療法整形外科

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学 I										
担当者氏名	木下 潤一郎										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

理学療法・作業療法へ展開するために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療を知る。

《テキスト》

中島雅美 編：『PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート 第2版』。医歯薬出版。2019年。

《参考図書》

奈良 勲 監：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』第2版。医学書院。2014年。

《行動目標 (SBOs)》

1. 主な循環器疾患、代謝性疾患、消化器疾患、呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
2. 内分泌疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
3. 泌尿器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
4. 血液・免疫疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。

《学生の留意点》

内科で扱う疾患は理学療法との直接の関係を持たないものも多いが、種々の病態を引き起こす基礎として存在している。また医療に従事する者の常識として内科疾患に対してある程度の知識が必須なので、積極的な学習を望む。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は医師が担当し、その実務経験を活かした内容である。

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	オンデマンド	木下	消化器疾患1	消化器系の解剖生理学、消化器疾患の症候・病態生理・検査法、消化管疾患各論
2	オンデマンド	木下	消化器疾患2	付属器（肝・胆・脾）疾患各論
3	オンデマンド	木下	代謝性疾患1	代謝の生理学・糖代謝障害（糖尿病・低血糖症）
4	オンデマンド	木下	代謝性疾患2	脂質代謝障害
5	オンデマンド	木下	代謝性疾患3	痛風・骨粗鬆症
6	オンデマンド	木下	循環器疾患1	循環器の解剖生理学、循環器疾患の検査、心不全
7	オンデマンド	木下	循環器疾患2	虚血性心疾患・心弁膜疾患
8	オンデマンド	木下	循環器疾患3	不整脈、心筋疾患、心膜炎、肺性心、肺高血圧症、肺塞栓、大動脈疾患、末梢血管疾患、高血圧
9	オンデマンド	木下	呼吸器疾患1	呼吸器の解剖生理学、呼吸器系の検査、呼吸不全、閉塞性換気障害
10	オンデマンド	木下	呼吸器疾患2	拘束性換気障害、感染性肺疾患、肺腫瘍、肺塞栓症、気胸、睡眠時無呼吸症候群、在宅酸素療法
11	オンデマンド	木下	内分泌疾患	内分泌腺の解剖生理学、内分泌疾患各論
12	オンデマンド	木下	腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器の解剖生理学、腎・泌尿器疾患各論
13	オンデマンド	木下	血液疾患	骨髄・血液の解剖生理学、血液疾患各論
14	オンデマンド	木下	免疫関連疾患	免疫反応の生理学、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症候群
15	オンデマンド	木下	総合討議	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅱ										
担当者氏名	遠藤 敏、中山 雅和										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的変化や老年者の疾患の特徴について学ぶ。
理学療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

大村附義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』。医学書院。2014。
日本老年医学会編：『老年医学テキスト3版』。MEDICALVIEW。2013。

《行動目標 (SBOs)》

【老年医学】1. 高齢者の特徴と医療・福祉政策が言える 2. 老化と加齢、老年症候群の特徴を言える 3. 高齢者の機能・生活評価の説明ができる
【小児科学】1. 先天異常について説明できる。2. 新生児の特徴について説明できる。3. 感染症、または予防接種の種類を列挙できる。4. 小児の発達過程を説明できる。5. 小児保健について説明できる。6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる。

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしてほしい。小児科学においては「こどもは大人の小型ではないので小児の身体的・心理的特徴、及び疾患の特徴をよく理解し、問題解決、治療指導において必要な技能、相応しい態度を身に付けられるように学習に臨んでほしい。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験100% (老年医学60%、小児科学40%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤敏(理学療法士)と保崎明(小児科医)が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	遠藤	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	講義教室	遠藤	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	講義教室	遠藤	高齢者の生理学的特徴1	高齢者の生理学的特徴(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器)
4	講義教室	遠藤	高齢者の生理学的特徴2	高齢者の生理学的特徴(呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器)
5	講義教室	遠藤	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
6	講義教室	遠藤	フレイルとロコモティブ・シンドローム	フレイルとロコモティブ・シンドロームの理解
7	講義教室	遠藤	高齢者の主な疾患①	高齢者における、特に重要な疾患
8	講義教室	遠藤	高齢者の主な疾患②	高齢者における、特に重要な疾患
9	講義教室	遠藤	認知症の理解	認知症特有の症状の理解
10	講義教室	遠藤	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
11	オンデマンド	中山	小児の疾病 先天異常①	小児の疾病 先天異常①
12	オンデマンド	中山	小児の疾病 先天異常②	小児の疾病 先天異常②
13	オンデマンド	中山	小児の疾病 感染症①	小児の疾病 感染症①
14	オンデマンド	中山	小児の疾病 感染症②	小児の疾病 感染症②
15	オンデマンド	中山	小児の疾病と障害 保健	小児の疾病と障害 保健

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅲ										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

作業活動を作業療法的手段として活用できるようになるため、目的に合致した適切な作業を選択し、その根拠を論理的に説明できる能力を養う。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

山根寛：『ひとと作業・作業活動 新版』、三輪書店、2017
監修 武田淳史、編集 浅沼辰志：『作業処方 一症例の分析と思考プロセス』 メジカルビュー、2013

《行動目標 (SBOs)》

1. 各種作業活動の特徴をとらえ、治療的に活用する方法を説明できる。
2. 対象者に適した作業活動を選択し、その根拠を考察し説明できる。
3. 選択した作業について、難易度を調整する方法を説明できる。

《学生の留意点》

本授業は、作業活動を通じた治療計画を立案する基本的な考え方を学習する。これまでの各科目内容と経験を統合し、評価や治療において目的に応じて選択する作業活動の手段を増やす機会とする。本授業は、講義・実技・紙面症例・課題発表が含まれる。各作業体験への積極的な取り組みを望む。実技を伴う活動もあるため動きやすい服装を用意すること。本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（※ 期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験100%（ワークシート）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福井	オリエンテーション	オリエンテーション
2	講義教室	福井	作業選択と臨床推論	作業選択のプロセスと臨床的推論
3	講義教室	福井	作業の段階付	作業の段階付けの基本
4	実技教室	福井	治療に用いる作業活動①	作業療法特有の治療器具・作業の理解①
5	実技教室	福井	治療に用いる作業活動②	作業療法特有の治療器具・作業の理解②
6	講義教室	福井	各領域の作業活動①	身体障害領域（整形疾患・中枢疾患など）の作業選択
7	講義教室	福井	各領域の作業活動②	グループワーク
8	講義教室	野際	各領域の作業活動③	精神障害領域の作業選択
9	講義教室	野際	各領域の作業活動④	グループワーク
10	講義教室	兵頭	各領域の作業活動⑤	発達障害領域の作業選択
11	講義教室	兵頭	各領域の作業活動⑥	グループワーク
12	講義教室	柴田	各領域の作業活動⑦	老年期領域（認知症など）の作業選択
13	講義教室	柴田	各領域の作業活動⑧	グループワーク
14	講義教室	福井	各領域の作業活動⑨	複合的な課題を持つ対象者への作業選択
15	講義教室	福井	まとめ	14回の授業を振り返り各自まとめを行う。

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学演習										
担当者氏名	福井 健太郎 鈴木 憲雄										
授業方法	実技	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(G10)》

1. 必要な検査・測定法を選択できるようになるために、各検査・測定法の目的・意義を理解できる。
2. 安全で適切な評価を実施することができるために、基本的な検査法を理解する。

《テキスト》

1. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著, 津山直一 訳: 『新・徒手筋力検査法 原著第10版』. 協同医学出版社, 2020年。

《参考図書》

1. 能登真一他: 『標準作業療法学作業療法評価学第4版』 医学書院, 2024

《行動目標(SBOs)》

1. 検査・測定の目的、意義を説明できる。
2. 基礎的知識をもとにした検査とその意義の結び付きを説明できる。
3. 各検査・測定の基本的な方法を説明できる。
4. リスク管理・環境に配慮した検査・測定の工夫を説明できる。

《学生の留意点》

臨床実習Ⅰに関わる大事な授業です。運動学Ⅱ・日常生活評価学等の授業と連動して、作業療法評価の基礎を学んでいきます。予習・復習を含め積極的に学習し、実技ではケーシーなど動きやすい服装・感染症予防対策をして参加してください。
本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学演習の授業に活かした科目としている。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）実技試験（30%）で評価する。
成績は総合的に判断する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福井	脳卒中①	脳卒中
2	実技教室	福井	脳卒中②	片麻痺者の障害像
3	実技教室	福井	脳卒中③	脳血管障害と作業療法
4	実技教室	福井	片麻痺機能検査①	ブルンストロームステージテスト
5	実技教室	福井	片麻痺機能検査②	上田式12段階片麻痺機能検査
6	実技教室	福井	片麻痺機能検査③	フューゲルメイヤーアセスメントとSIAS
7	実技教室	福井	筋緊張の評価	筋緊張検査（MAS）
8	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ①	意義・検査法・基礎知識の確認
9	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ②	上肢①
10	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ③	上肢②
11	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ④	上肢③
12	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ⑤	上肢④～手指①
13	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ⑥	手指②
14	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ⑦	下肢①
15	実技教室	福井	徒手筋力検査法 ⑧	下肢②
16	講義教室	福井	認知機能検査	HDS-R, MMSE
17	講義教室	鈴木	面接	COPM
18	講義教室	福井	脳神経検査	脳神経検査
19	実技教室	岩谷	座位評価と車椅子①	シーティング①
20	実技教室	岩谷	座位評価と車椅子②	シーティング②
21	実技教室	神谷	失語症	失語症
22	実技教室	福井	バランス評価①	立ち直り反応と平衡反応のバランス検査
23	実技教室	福井	バランス評価②	ファンクショナルリーチテスト, TUG
24	実技教室	福井	バランス評価③	ベルグバランススケール（ファンクショナルバランススケール）
25	実技教室	福井, 他	検査・測定の実施①	対象者に応じた検査・測定の実施①
26	実技教室	福井, 他	検査・測定の実施②	対象者に応じた検査・測定の実施②
27	実技教室	福井, 他	検査・測定の実施③	対象者に応じた検査・測定の実施③
28	実技教室	福井, 他	検査・測定の実施④	対象者に応じた検査・測定の実施④
29	実技教室	福井	運動機能の評価	簡易上肢機能検査（STEP）
30	講義教室	福井	評価計画	評価計画の立て方・動作のスクリーニング

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	発達系作業療法評価学										
担当者氏名	兵頭 洋子										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

発達障害（広義）の作業療法評価を実施できるようになるために必要な知識を身につける

《テキスト》

能登真一他編集：『作業療法評価学第4版』．医学書院．2024

《参考図書》

その都度紹介いたします．

《行動目標(SBOs)》

1. 正常発達のマイルストーンを述べることができる
2. 粗大運動・上肢機能・感覚統合機能・認知機能等の発達がそれぞれ関連していることを説明できる
3. 発達障害領域の作業療法評価の目的、評価項目を列挙できる
4. 発達障害領域の作業療法評価で使用する評価法を列挙し、その特徴を述べるができる

《学生の留意点》

この授業では、発達障害領域の対象者を評価するための正常発達・評価法の知識を学ぶ。正常発達の知識は発達障害領域のみならず、身体障害領域・精神障害領域にも関与していく。関連を考えながら学習をしてください。
本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80％，課題 20％

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法評価の実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	兵頭	コースオリエンテーション 胎児の発達	コースオリエンテーション，胎児の発達
2	講義教室	兵頭	正常発達①	運動発達と反射・反応との関連
3	講義教室	兵頭	正常発達②	知覚運動機能（感覚統合）の発達，認知機能の発達
4	講義教室	河野達	正常発達③	社会性機能の発達
5	講義教室	兵頭	正常発達④	出生～3歳までの発達（上肢，感覚・認知，社会性機能の発達）
6	講義教室	兵頭	正常発達⑤	3～5歳までの発達（ ）
7	講義教室	兵頭	発達過程評価法①	発達過程作業療法における家族との面接，発達過程作業療法における発達検査の目的と留意点，発達全般を評価する検査①
8	講義教室	兵頭	発達過程評価法②	発達全般を評価する検査② 遠城寺式，DENVER II など 一部検査を体験
9	講義教室	兵頭	発達過程評価法③	運動機能の評価①
10	講義教室	兵頭	発達過程評価法④	運動機能の評価② 姿勢・動作分析 など
11	講義教室	兵頭	発達過程評価法⑤	感覚統合機能の評価①
12	講義教室	兵頭	発達過程評価法⑥	感覚統合機能の評価② JPAN, JMAP, JSI-R, 感覚プロファイル など 一部検査を体験
13	講義教室	兵頭	発達過程評価法⑦	視知覚・視覚認知の評価，知能・認知機能の評価①
14	講義教室	兵頭	発達過程評価法⑧	視知覚・視覚認知の評価，知能・認知機能の評価② WAVES, グッドイナフ など 一部検査を体験
15	講義教室	兵頭	発達過程評価法⑨ まとめ	行動，作業遂行・日常生活活動の評価，評価計画を立案する

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	日常生活評価学										
担当者氏名	福井 健太郎 鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の日常生活動作を評価できるようになるために、知識・技術を身につける。

《テキスト》

長崎重信監：『作業療法学コア・テキスト日常生活活動学（ADL）改訂第2版』メヂカルビュー、2022

《参考図書》

山本伸一編：『中枢神経系疾患に対する作業療法』三輪書店、2009.

《行動目標(SBOs)》

1. 代表的な日常生活動作の評価バッテリーの特徴を説明できる。
2. FIMにある日常生活動作を評価するポイントを説明できる。
3. 障害を持つ人の日常生活動作を観察・分析・評価できる。
4. 日常生活動作の観察・分析・記録ができる。

《学生の留意点》

作業療法評価と臨床実習Ⅰに大きく関わる授業です。ADLを評価する知識と共に動作を見るための知識・技術を身につけ、動作を見る目とそれを表現する力を身につけましょう。
本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80％，課題（レポート）20％
成績は総合的に判断する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福井	ADLとIADL	総論
2	講義教室	福井	ADL評価スケール①	Barthel Indexの評価
3	講義教室	福井	ADL評価スケール②	FIMの評価①
4	実技教室	福井	ADL評価スケール③	FIMの評価②
5	実技教室	福井	ADL評価スケール④	FIMの評価③
6	講義教室	福井	IADLと評価スケール	IADLとFAI
7	実技教室	福井	介助と評価①	起居動作の介助と評価
8	実技教室	福井	介助と評価②	移乗の介助と評価
9	実技教室	福井	座位での活動	座位姿勢と上肢機能
10	講義教室	福井	ADLの評価①	食事動作の評価
11	講義教室	福井	ADLの評価②	嚥下障害
12	講義教室	福井	ADLの評価③	整容動作の評価
13	実技教室	福井	ADLの評価④	更衣動作の評価
14	実技教室	福井	ADLの評価⑤	排泄動作の評価
15	実技教室	福井	ADLの評価⑥	洗体動作の評価

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	職業関連活動評価学										
担当者氏名	野際 陽子										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

職業関連活動における作業療法評価ができるために、関連知識を身につける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

配布資料

- 《行動目標(SBOs)》
1. 作業療法における職業関連活動の位置付けを説明できる。
 2. 職業リハビリテーションの評価と方法について説明できる。
 3. 就労に関係した評価法の種類と特徴を説明できる。
 4. 上記主な評価法の手順を説明できる。
 5. 就労に関係した主な検査を学生間で実施できる。
 6. 就労支援の一連の流れを説明できる。
 7. 代表的な対象疾患に対する就労支援の概略を説明できる。

《学生の留意点》

対象者の状況に合わせた職業復帰を支援できるようにするために、職業関連活動の評価と実際を学びます。評価を実際にできるよう、積極的にテストバッテリーの実施方法を演習し身につけてください。各領域で職業復帰の支援をしている作業療法士の評価・実践を講義してもらいます。*授業の順番が変更になることがあります。本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、障害者の職業関連活動の評価と支援及び就労の観点から授業内に生かした科目としている。

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

期末試験(筆記試験、認知能力・知識)80%、課題20%、で評価する。課題：オンデマンド授業となった場合、オンデマンド課題15回を含む。①各授業のまとめ、②治療計画立案の演習まとめ(臨床思考能力)

《授業計画》				
回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	柴田	オリエンテーション	キャリア形成および評価について
2	講義教室	野際	作業療法の仕事と就労支援	職業関連活動評価と支援
3	講義教室	野際	職業リハビリテーションにおける流れと評価	職業関連活動の流れと評価方法：サーブス内容や評価の種類など
4	講義教室	野際	各種就労支援施設の枠組み	法律における歴史、法律における就労支援の種類と枠組み：就労移行、A型、B型、継続支援
5	講義教室	野際	就労に関する検査方法①	職業関連活動評価方法①：VIP職業興味検査を体験する。また、自己を振り返る。
6	講義教室	野際	就労に関する検査方法②	職業関連活動評価方法②：労働省編一般職業適性検査（GATB）を体験する。また、自己を振り返る。
7	講義教室	野際	就労に関する検査方法③	職業関連活動評価方法③：職業レディネス・テストを体験する。また、自己を振り返る。
8	講義教室	野際	就労に関する検査方法④	作業場面を利用した評価法④：マイクロタワー法、ワークサンプル幕張版など
9	講義教室	野際	精神障害の方への就労支援	精神障害領域の職業関連活動と実践の紹介
10	講義教室	外部講師	高次脳機能障害の方への就労支援	高次脳機能障害領域の職業関連活動評価と実践の紹介
11	講義教室	外部講師	発達障害の方への就労支援	発達障害領域の職業関連活動評価と実践の紹介
12	講義教室	外部講師	発達障害の方への就労支援	発達障害領域の職業関連活動評価と実践の紹介
13	講義教室	外部講師	精神障害の方への就労支援	精神障害領域の職業関連活動と実践の紹介
14	講義教室	野際	事例検討	事例検討、グループ検討する
15	講義教室	野際	事例検討	事例検討、グループ検討する

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	作業療法治療学特論										
担当者氏名	柴田 真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の展開を思考するために作業療法の理論の体系および各種理論の内容を理解し、理論に沿った実践を考察する

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

小川真寛 他：5W1Hで分かりやすく学べる 作業療法理論の教科書
メジカルビュー社 2021

《行動目標(SBOs)》

1. 理論とは何か説明できる
2. 理論の階層性について説明できる
3. 作業療法理論の必要性について説明できる
4. 授業で紹介される各種理論で利用される言葉の意味を説明できる
5. 授業で紹介される各種理論の概要と特徴が説明できる

《学生の留意点》

作業療法の実践には何故その作業の実現を目標とするのか、何故その作業を治療に応用するのかの説明が求められます。学生には自分の治療を他者に説明できるようになるために主体的に考え表現することを求めます。
本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験60% 課題提出40%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	柴田	オリエンテーション 理論とは	オリエンテーションを行い、これからの授業の内容を説明する。また作業療法における理論とは何かについて説明する。
2	講義教室	柴田	作業療法理論の概要	作業療法理論の背景と発展について説明する
3	講義教室	柴田	超メタ理論	作業に根ざした実践2.0 の概要を説明する
4	講義教室	柴田	メタ理論①	作業科学について説明する
5	講義教室	柴田	メタ理論②	Doing, Being, Becoming, Belongingの概要を説明する
6	講義教室	柴田	大範囲理論①	人間作業モデルの概要を説明する
7	講義教室	柴田	大範囲理論②	カナダモデルの概要を説明する
8	講義教室	柴田	大範囲理論③	川モデルの概要を説明する
9	講義教室	柴田	中範囲理論①	作業適応理論 Constrain-induce movement therapy 認知神経リハビリテーションの概要を説明する
10	講義教室	柴田	中範囲理論②	プール活躍レベル A-ONE 認知行動療法の概要を説明する
11	講義教室	柴田	中範囲理論③	CO-OP 認知機能 Rehabilitation マインドフルネス作業療法の概要を説明する
12	講義教室	柴田	小範囲理論	ポジティブ心理学と生体力学モデルの概要を説明する
13	講義教室	柴田	プロセスモデル	生活行為向上マネジメントと作業療法介入プロセスモデルの概要を説明する
14	講義教室	柴田	臨床におけるモデル	リーズニングとEvidence-Based Practice の概要を説明する
15	講義教室	柴田	まとめ	14回の授業を振り返り各自まとめを行う。

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	身体系作業療法学										
担当者氏名	福井 健太郎 鈴木 恵雄										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

身体障害に対する作業療法を実施できるようになるために知識・技術を得得する。

《テキスト》

長崎 重信監：『作業療法学』第3版 マサキ・リベス 身体障害作業療法学
第3版 メジカルビュー、2022

《参考図書》

山口昇：『身体機能作業療法学（第4版）』、医学書院、2021

《行動目標(SBOs)》

1. 中枢神経疾患の治療について説明できる。
2. 脊髄損傷について説明できる。
3. 神経筋疾患について説明できる。
4. 嚥下障害を説明できる。
5. 内部障害について説明できる。
6. ハンドセラピーについて説明できる。

《学生の留意点》

この授業では身体障害の作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。まず、評価から治療計画までの基本的な考え方を学び、身体障害作業療法法を中心的な疾患である脳血管疾患について評価から治療技術までを応用学習する。次いで各種疾患の作業療法について学習する。

本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	外来	ハンドセラピー①	ハンドセラピー
2	講義教室	外来	ハンドセラピー②	ハンドセラピー
3	講義教室	外来	ハンドセラピー③	ハンドセラピー
4	講義教室	外来	ハンドセラピー④	ハンドセラピー
5	講義教室	外来	ハンドセラピー⑤	ハンドセラピー
6	講義教室	外来	ハンドセラピー⑥	ハンドセラピー
7	講義教室	福井	脳血管障害①	脳血管疾患の基礎①（脳機能・疾患）
8	講義教室	福井	脳血管障害②	脳血管疾患の基礎②
9	講義教室	福井	脳血管障害③	脳血管疾患に対する作業療法 ①
10	講義教室	福井	脳血管障害④	脳血管疾患に対する作業療法 ②
11	講義教室	福井	脳血管障害⑤	脳血管疾患に対する作業療法 ③
12	講義教室	福井	脳血管障害⑥	脳血管疾患に対する作業療法 ④ 小脳（協調障害）
13	講義教室	外来	嚥下障害①	嚥下障害の異常を察知し、対処する①
14	講義教室	外来	嚥下障害②	嚥下障害の異常を察知し、対処する②
15	講義教室	外来	脊髄損傷①	脊髄損傷に対するOT①
16	講義教室	外来	脊髄損傷②	脊髄損傷に対するOT②
17	講義教室	外来	脊髄損傷③	脊髄損傷に対するOT③
18	講義教室	外来	脊髄損傷④	脊髄損傷に対するOT④
19	講義教室	外来	脊髄損傷者への支援①	高位脊髄損傷者のADLと就業の一般的状況①
20	講義教室	外来	脊髄損傷者への支援②	高位脊髄損傷者のADLと就業の一般的状況②
21	講義教室	福井	脳血管障害⑦	運動学習と治療
22	講義教室	福井	神経筋疾患①	神経筋疾患に対するOT①パーキンソン病
23	講義教室	福井	神経筋疾患②	神経筋疾患に対するOT②多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症
24	講義教室	福井	神経筋疾患③	神経筋疾患に対するOT③脊髄小脳変性症、ギランバレー症候群
25	講義教室	福井	内部障害①	心電図
26	講義教室	福井	内部障害②	内部障害に対するOT 呼吸器疾患（グループワーク①）
27	講義教室	福井	内部障害③	内部障害に対するOT 糖尿病（グループワーク②）
28	講義教室	福井	内部障害④	内部障害に対するOT 心臓リハ（グループワーク③）
29	講義教室	福井	内部障害⑤	癌に対するOT（グループワーク④）
30	講義教室	福井	内部障害⑥	発表（グループワーク⑤）

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	身体系作業治療学演習										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

《テキスト》

特に指定しない

作業療法の対象者に対して、作業療法の本質を踏まえた作業療法を実施できるようになるために、疾患の特性を配慮した作業療法介入の治療原則に関する基本的知識を身につける。

《参考図書》

●長崎重信：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第2版。メジカルビュー社。2015
他必要に応じて提示します。

《行動目標(SBOs)》

1. 身体障害の対象者に対する作業療法理論やモデルについて示すことができる。
2. 関節可動域障害の原因について説明できる。
3. 関節可動域訓練の種類を説明できる。
4. 筋力低下の原因について説明できる。
5. 筋力増強訓練の原則について説明できる。
6. 協調運動障害の対象者に対する作業療法介入原則を説明できる。
7. 脳血管障害片麻痺の対象者に対する感覚運動アプローチの焦点について説明できる。
8. 物理療法の効果
9. 物理療法使用上の注意点について説明できる。
10. 大腿骨頭部骨折の対象者に対する作業療法介入の原則について説明できる。
11. その他の整形外科疾患の対象者に対する治療原則を説明できる。
12. 作業療法介入時の一般的なリスク管理について説明できる。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

全ての授業終了後に実施する期末試験(筆記試験)50%、授業期間中に実施する小テスト(40%)、授業態度(課題提出期限厳守10%)の計100%で評価を実施する。60%以上を合格とし、60%未満を期末試験再試験(筆記試験100%)の該当者とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	鈴木	オリエンテーション/臨床推論	科目オリエンテーション/身体障害領域における作業療法の理論
2	講義教室	鈴木	上肢機能訓練①	関節可動域訓練/関節可動域制限の起因/治療原理
3	講義教室	鈴木	上肢機能訓練②	自動助運動、他動運動、伸張運動基本的運動(他動運動・自動助運動・自動運動・抵抗運動)、構成運動・副運動
4	講義教室	鈴木	上肢機能訓練③	作業と関節可動域訓練
5	講義教室	鈴木	上肢機能訓練④	治療指標、筋力低下の原因、筋力増強訓練(DeLormeの漸増抵抗運動/Oxford法の漸減抵抗運動/DeLormeの漸減補助運動)
6	講義教室	鈴木	上肢機能訓練⑤	作業と筋力増強訓練
7	講義教室	鈴木	上肢機能訓練⑥	筋力増強訓練の適用およびリスク管理MMTの段階に基づく訓練方法、筋力増強訓練時の注意点/収縮様態の特徴と留意点、作業療法における筋力増強の目的・留意点、治療の原則
8	講義教室	鈴木	上肢機能訓練⑦	協調性訓練の原則：典型的な巧緻性・協調性の障害、治療小の原則、具体的治療法
9	実技教室	鈴木	上肢機能訓練⑧	脳血管障害片麻痺に対する医学モデル：感覚運動アプローチ(Brunnstrom recovery stage/Bobath) 演習
10	講義教室	鈴木	上肢機能訓練⑨	脳血管障害片麻痺に対する医学モデル：感覚運動アプローチ(Brunnstrom recovery stage/Bobath) 演習
11	講義教室	鈴木	感覚運動アプローチ	感覚運動アプローチの演習
12	講義教室	鈴木	物理療法	物理療法：物理療法の歴史/リスク管理、温熱療法(ホットパック、パラフィン、寒冷療法、水治療法)
13	講義教室	鈴木	整形外科疾患①	大腿骨頭部骨折の対象者に対する作業療法
14	講義教室	鈴木	整形外科疾患②	その他の整形外科疾患に対する作業療法
15	講義教室	鈴木	リスク管理	リスク管理と機能訓練

《学生の留意点》

疾患を土台とした作業療法介入の原則を身につける科目となる。本科目で扱う疾患だけでなく、その他の作業療法治療学で取り上げる疾患の患者に対する作業療法介入原則についても科目を超えて整理する必要がある。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	精神神経系作業療法学										
担当者氏名	並木秀樹										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(G10)》

精神科作業療法と精神科領域における支援の実施に必要な、知識・技術を身につける

《テキスト》

新宮尚人 編集：標準作業療法学〔専門分野〕「精神機能作業療法学」第4版、医学書院、2025

《参考図書》

長崎重信 監修：作業療法学ゴールドマスターテキスト「精神障害作業療法学」第3版、メディカルビュー、2021

《行動目標(SBOs)》

- ①精神障害領域の作業療法を計画するために、評価・治療の流れを説明できる
- ②精神障害領域の作業療法で活用するために、各治療理論について、それぞれ要点を説明できる
- ③精神障害領域の作業療法を実施するために、各疾患・障害への対応方法を説明できる

《学生の留意点》

対象者との関わり方、対応の仕方として「自分で行うこと」と意識し、自分が実施しているイメージをもって学んでほしい。また、同分野における国家試験の特徴も合わせ学習していく。本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、精神障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《成績評価の方法》

筆記試験80%、課題20%
上記の合計100%中、6割に満たない場合は再試験を行う。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	並木	歴史から見る精神障害と作業療法	精神疾患・障害を持つ人々がどのように認識され、扱われてきたかを学び、作業療法士が社会から求められていることを確認していく
2	講義教室	並木	作業療法士が関わる精神科支援	精神科医療の流れと作業療法士が関わる支援を学ぶ
3	講義教室	並木	精神科作業療法等の基準	精神科作業療法や精神科デイケアなどの施設基準・算定基準、および地域生活支援サービスとしての訪問看護、アウトリーチ支援事業、ACTを学ぶ
4	講義教室	並木	基本的視点と精神科作業療法の目標	基礎となるべき「自己理解」「リアルオキュペーション」「リカバリー」「ストレングス」「エンパワメント」といった視点と、精神科作業療法の目標を学んでいく
5	講義教室	並木	症例を通して精神科支援をとらえる	これまでに学んできた支援や視点を具体的にイメージするために、症例（ペーパーペイシェント）と照らし合わせて学んでいく
6	講義教室	並木	作業療法の流れと臨床思考	対象者との出会いからの作業療法の流れを学ぶ
7	講義教室	並木	精神科作業療法で活用される基礎理論	さまざまな治療法で活用される、精神力動（防衛機制）、求心者中心療法、発達理論、学習理論（レスポナント学習理論、オペラント学習理論、認知理論）を学ぶ
8	講義教室	並木	認知行動療法	学習理論を活用した治療法として、認知行動療法を学ぶ
9	講義教室	並木	作業療法の理論	作業療法の治療理論として、作業行動理論、人間作業モデル、CMOP、感覚統合、MTDLPを学ぶ
10	講義教室	並木	精神科作業療法技法	作業療法の技法を学ぶ
11	講義教室	並木	治療構造・治療的態度	精神科作業療法を計画する上で必要となる、治療構造と治療的態度を学ぶ
12	講義教室	並木	疾患別 統合失調症	統合失調症の特徴を学ぶ
13	講義教室	並木	疾患別 統合失調症	統合失調症の作業療法を学ぶ
14	講義教室	並木	疾患別 統合失調症	統合失調症の回復段階を学ぶ
15	講義教室	並木	疾患別 統合失調症	統合失調症の症例（ペーパーペイシェント）を通してイメージを統合する
16	講義教室	並木	疾患別 抑うつ症、双極症	抑うつ症と双極症の特徴を学ぶ
17	講義教室	並木	疾患別 抑うつ症、双極症	抑うつ症の作業療法を学ぶ
18	講義教室	並木	疾患別 抑うつ症、双極症	双極症の作業療法を学ぶ
19	講義教室	並木	疾患別 抑うつ症、双極症	双極症の症例（ペーパーペイシェント）を通してイメージを統合する
20	講義教室	並木	疾患別 パーソナリティ症	パーソナリティ症の特徴を学ぶ
21	講義教室	並木	疾患別 パーソナリティ症	パーソナリティ症の作業療法を学ぶとともに、症例（ペーパーペイシェント）を通してイメージを統合する
22	講義教室	並木	疾患別 摂食障害	摂食障害の特徴を学ぶ
23	講義教室	並木	疾患別 摂食障害	摂食障害の作業療法を学ぶとともに、症例（ペーパーペイシェント）を通してイメージを統合する
24	講義教室	並木	疾患別 神経症性障害	神経症性障害の特徴を学ぶ
25	講義教室	並木	疾患別 神経症性障害	神経症性障害の作業療法を学ぶ
26	講義教室	並木	疾患別 神経症性障害	神経症性障害の症例（ペーパーペイシェント）を通してイメージを統合する
27	講義教室	並木	疾患別 神経発達症群	神経発達症群の特徴と作業療法を学ぶ
28	講義教室	並木	疾患別 物質関連症	物質関連症の特徴を学ぶ
29	講義教室	並木	疾患別 物質関連症	アルコール関連症の作業療法を学ぶ
30	講義教室	並木	疾患別 身体合併症	身体合併症の特徴と作業療法を学ぶ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	精神神経系作業治療学演習										
担当者氏名	野際 陽子										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

精神障害領域において治療・対応ができるようになるために、評価から治療の導入方法、対応方法を身につける。

《テキスト》

長崎重信他：『作業療法ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法第3版』メディカルビュー社、2021

《参考図書》

配布資料

《行動目標(SBOs)》

1. 導入および関わりに必要な技能を理解し、実施できる。
2. 治療技法としてレクリエーションの企画を立案できる。
3. 疾患や障害に応じた治療を理解し、実践できる。

《学生の留意点》

精神障害作業治療学を基に、アプローチに関わる視点、スキルを中心に学習し演習します。本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験：60% 筆記試験が6割に満たない場合は再試験とする。
演習：40%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、精神障害の作業療法実施という観点から授業内容を生かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	野際	基礎体験	治療的行為を行うために、まずは自分を知る。作業療法の目的と治療目標について。
2	講義教室	野際	基礎体験	個別と集団の違いについて。個別作業療法の目的、留意点、実践例について。
3	講義教室	野際	基礎体験	集団の作業療法について。集団作業療法の目的、留意点、実践例について。
4	実技教室	野際	治療演習（主に急性期）	ストレッチ、リラクゼーション
5	実技教室	野際	治療演習（主に急性期）	軽作業(塗り絵、切り絵など)
6	実技教室	野際	治療演習（主に急性期～回復期）	軽運動、心理教育、WRAP
7	実技教室	野際	治療演習（主に回復期）	SST、服薬管理プログラム（うけこつ）
8	実技教室	野際	治療演習（最近の治療法）	CBT
9	実技教室	野際	治療演習（最近の治療法）	マインドフルネス、セルフコンパッション
10	講義教室	野際	治療的レクリエーション	症例の提示、計画
11	講義教室	野際	治療的レクリエーション	計画・立案
12	講義教室	野際	治療的レクリエーション	計画・立案
13	実技教室	野際	治療的レクリエーション	各グループによる実施
14	実技教室	野際	治療的レクリエーション	各グループによる実施
15	講義教室	野際	まとめ	フィードバック

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	発達系作業療法学										
担当者氏名	兵頭 洋子、複数外来講師										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

発達領域の作業療法を実践できるようになるための知識・技術（一部）を習得する。

《テキスト》

加藤寿宏編集：標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学、医学書院、2020

《参考図書》

適宜紹介いたします。

《行動目標(SBOs)》

1. 発達領域領域における作業療法の評価計画・治療計画の流れを述べる事ができる。
2. 発達障害領域の代表的な対象者（脳性麻痺、神経発達症、知的発達症他）に対し作業療法評価計画を立案できる。
3. 発達障害領域の代表的な対象者（脳性麻痺、神経発達症、知的発達症他）に対し作業療法治療計画を立案できる。
4. 知能認知機能検査の結果の読み方を説明でき、結果から臨床像及び対策について述べる事ができる。
5. 発達障害領域での作業療法の現状を知り、今後の課題について自分の考えを述べる事ができる。

《学生の留意点》

この授業では発達障害領域の作業療法を実践するために必要な知識・技術を学習する。まず、評価から治療計画までの基本的な考え方を学習する。そして、発達障害領域の作業療法の中心となる疾患である、神経発達症・知的発達症・脳性麻痺について、評価から治療まで学習する。授業は、講義・実技・紙面事例・課題発表を通して進めていく。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。一部授業において、他職種及び当事者家族が担当することもある。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験100%）

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	兵頭	評価・治療計画立案の考え方 疾患別作業療法①	評価から治療計画立案までの考え方 知的発達障害に対する作業療法①
2	講義教室	兵頭	疾患別作業療法②	知的発達障害に対する作業療法②
3	講義教室	兵頭	疾患別作業療法③	発達障害に対する作業療法① 自閉スペクトラム症
4	講義教室	兵頭	疾患別作業療法④	発達障害に対する作業療法② 注意欠如多動症
5	講義教室	林	疾患別作業療法⑤	脳性麻痺に対する作業療法①
6	実技教室	林	疾患別作業療法⑥	脳性麻痺に対する作業療法②
7	講義教室	兵頭	疾患別作業療法⑦	筋ジストロフィーに対する作業療法①
8	実技教室	兵頭	疾患別作業療法⑧	筋ジストロフィーに対する作業療法②
9	講義教室	林	疾患別作業療法⑨	脳性麻痺に対する作業療法③
10	実技教室	林	疾患別作業療法⑩	脳性麻痺に対する作業療法④
11	講義教室	林	疾患別作業療法⑪	脳性麻痺に対する作業療法⑤
12	実技教室	林	疾患別作業療法⑫	脳性麻痺に対する作業療法⑥
13	講義教室	林	疾患別作業療法⑬	重症心身障害に対する作業療法①
14	講義教室	林	疾患別作業療法⑭	重症心身障害に対する作業療法②
15	講義教室	河野達哉	疾患別作業療法⑮	発達障害の二次障害・被虐待児に対する作業療法
16	講義教室	柴田	疾患別作業療法⑯	司法領域における現状と作業療法
17	実技教室	兵頭	疾患別作業療法⑰	症例検討①
18	実技教室	兵頭	疾患別作業療法⑱	症例検討②
19	講義教室	成田	発達・心理検査結果の解釈①	WISCの結果の解釈①
20	講義教室	成田	発達・心理検査結果の解釈②	WISCの結果の解釈②
21	講義教室	兵頭	疾患別作業療法⑳	各種疾患への作業療法（グループワーク）
22	講義教室	兵頭	疾患別作業療法㉑	各種疾患への作業療法（グループワーク）
23	講義教室	兵頭	疾患別作業療法㉒	各種疾患への作業療法（発表）
24	講義教室	兵頭	疾患別作業療法㉓	各種疾患への作業療法（発表）
25	講義教室	西方	疾患別作業療法㉔	摂食機能障害への作業療法①
26	講義教室	西方	疾患別作業療法㉕	摂食機能障害への作業療法②
27	講義教室	西方	疾患別作業療法㉖	摂食機能障害への作業療法③
28	講義教室	西方	疾患別作業療法㉗	摂食機能障害への作業療法④
29	講義教室	大橋	ご家族の思いに寄り添う	ご家族の思いに触れる
30	講義教室	大橋	ご家族の思いに寄り添う	ご家族の思いに触れる

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	発達系作業療法学演習										
担当者氏名	兵頭 洋子										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

発達障害（広義）の作業療法を実施できるようになるために必要な基礎的技術を習得する。

《テキスト》

加藤寿宏編集 標準作業療法学 発達過程作業療法学第3版 医学書院 2020

《参考図書》

その都度紹介いたします。

《行動目標(SBOs)》

1. 遊びの場面を通しての評価・支援のメリット・デメリットについて述べるができる。
2. 遊びの場面を通して、対象者の作業療法評価・支援を行える。
3. 各治療理論等を用い、対象者の作業療法計画を立案できる。
4. 障害像に合わせて作業療法計画を立案できる。

《学生の留意点》

この科目では、発達障害領域の作業療法を実施するうえで役立つ理論について、演習を通して学びます。講義だけでなく、グループワークを多く取り入れて行いますので、積極的に参加してください。
※授業計画に記載してある順番は変更となる可能性があります。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（*期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80%
課題（ワークシート他）20%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	兵頭	コースリエンション・遊びの場面からの評価と支援①	遊びの場面での評価・支援におけるメリット・デメリット
2	講義教室	兵頭	遊びの場面からの評価と支援②	玩具遊び・遊具遊びの作業分析①
3	講義教室	兵頭	遊びの場面からの評価と支援③	玩具遊び・遊具遊びの作業分析②
4	講義教室	兵頭	遊びの場面からの評価と支援④	玩具遊び・遊具遊びの作業分析③
5	講義教室	兵頭	TEACCHプログラム①	TEACCHとは。構造化とは
6	講義教室	兵頭	TEACCHプログラム②	症例に合わせて、構造化を考える（グループワーク）
7	講義教室	兵頭	応用行動分析①	応用行動分析とは
8	講義教室	兵頭	応用行動分析②	症例に合わせて関わりを考える（グループワーク）
9	講義教室	兵頭	感覚統合理論①	感覚統合とは。感覚統合障害について
10	実技教室	兵頭	感覚統合理論②	感覚統合遊具の体験
11	実技教室	兵頭	感覚統合理論③	症例に合わせて、感覚統合遊具を使用した遊びを考える
12	講義教室	兵頭	感覚統合理論④	症例に合わせて、感覚統合遊具を使用した遊びを考える（発表）
13	講義教室	兵頭	手指機能の運動障害への作業療法	手指機能の運動障害とは。手指機能の運動障害に対する作業療法アプローチ
14	講義教室	兵頭	コミュニケーション能力障害への作業療法	コミュニケーションとは。コミュニケーション能力の障害とは。コミュニケーション能力障害に対する作業療法アプローチ
15	講義教室	兵頭	視運動・視知覚認知機能障害への作業療法	視運動・視知覚認知機能とは。視運動・視知覚認知機能の障害とは。視運動・視知覚認知機能に対する作業療法アプローチ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	高齢期作業療法学										
担当者氏名	並木秀樹										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標 (GIO)》

高齢者とはどのような人なのかを理解し、身体的、精神的な特徴と生活への影響を知り、対象者が主体的に生活できるための支援のあり方を知る

《テキスト》

浅海奈津美，他：『老年期の作業療法 改訂第3版』三輪書店，2018.

《参考図書》

藪脇健司編：『高齢者のその人らしさをとらえる作業療法』大切な作業の実現. 文光堂. 2015
山田実穂：イラストでわかる『高齢者の生活機能向上支援』地域ケアでの実践と手法の活用. 文光堂. 2017
松房利憲監修：標準作業療法学『高齢期作業療法学』. 医学書院. 2024

《行動目標 (SBOs)》

1. 高齢期・高齢者と老年症候群の特徴を説明できる
2. 高齢者に対する評価の目的と方法を説明できる
3. 高齢者に対する作業療法としての介入について目的と方法を説明できる
4. 高齢者に対する作業療法を行う上でのリスクを理解し、管理方法を説明できる

《学生の留意点》

高齢者は身体的、精神的、社会的な困難が複合しており、個人差が大きい。そのため、他の科目で学んだことを活用していく必要があります。また、多くの領域で対象者として関わることが多いため、自分が行っていくということをイメージして学ぶ必要がある。
本科目の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《成績評価の方法》

筆記試験80%、課題20%
上記の合計100%中、6割に満たない場合は再試験を行う

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、老年期作業療法治療学の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	並木	高齢者とは	高齢者の定義、高齢期の特徴を学ぶ
2	講義教室	並木	高齢社会	社会変化と社会施策の変遷から、作業療法に求められていることを学ぶ
3	講義教室	並木	介護保険	介護保険の仕組みと介護保険下の作業療法とはどのようなものかを学ぶ
4	講義教室	並木	加齢による身体的変化	感覚機能、自律神経機能、運動機能における変化、影響を学ぶ
5	講義教室	並木	加齢による精神的変化	知的機能、記憶、人格特性、睡眠機能における変化、影響を学ぶ
6	講義教室	並木	加齢による生活の変化	喪失体験、役割の変化を中心に学ぶ
7	講義教室	並木	老年症候群①	老年症候群とは何か、代表的症候群にはどのようなものがあるかを学ぶ
8	講義教室	並木	老年症候群②	フレイルとは何かを学ぶ
9	講義教室	並木	老年症候群③	サルコペニアとは何かを学ぶ
10	講義教室	並木	老年症候群④	ロコモティブシンドロームとは何かを学ぶ
11	講義教室	並木	老年症候群⑤	高齢期における転倒について学ぶ
12	講義教室	並木	老年症候群⑥	高齢期うつについて学ぶ
13	講義教室	並木	老年症候群⑦	認知症の種類と特徴について学ぶ
14	講義教室	並木	評価（転倒）	FRT, かいがんかたあしきりつ
15	講義教室	並木	評価（CGA）	高齢者総合機能評価（CGA）の構成要素と各ツールについて学ぶ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	高次脳機能作業療法学										
担当者氏名	河野 崇										
授業方法	講義・演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

高次脳機能障害のメカニズムと臨床症状を理解し、対象者の残存機能や生活環境に応じた適切な評価・作業療法介入を立案・実施できる基礎的臨床能力を習得する。

《テキスト》

能登真一 編) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第3版

《参考図書》

森岡周 著) 高次脳機能のニューロリハビリテーション

《行動目標(SBOs)》

1. 脳の機能局在と主要な高次脳機能障害の関連を説明できる
2. 代表的な脳画像 (CT、MRI) から病巣を確認し、予測される出現症状を列挙できる
3. 主要な標準化検査 (kohs, TMT, S-PA, BIT等) の目的・方法を理解し、実施・分析できる
4. 症例に応じた代償手段の活用や環境調整を含む作業療法支援計画を立案できる
5. 行動観察に基づき、日常生活における障害の影響について専門用語を用いて記述できる

《学生の留意点》

高次脳機能障害の支援は、パズルを解くような知的な面白さと、対象者の人生に深く寄り添う人間味の両方が求められます。病院だけでなく、地域生活など、OTが活躍できるフィールドは非常に広いです。この15回を通して、脳の不思議を学び、クライアントの「明日」を創る力を養いましょう。高次脳機能障害への支援を行う上で必要となる知識・技術・臨床的思考を学びます。グループワークや演習もありますので、積極的に参加すること。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

期末試験70% (筆記試験 100%)
小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	河野崇	総論	高次脳機能の全体像
2	講義教室	河野崇	高次脳機能の基礎①	高次脳機能の局在論・全体論
3	講義教室	河野崇	高次脳機能の基礎②	脳画像①
4	講義教室	河野崇	高次脳機能の基礎③	脳画像②
5	講義教室	河野崇	高次脳機能の評価①	検査測定からの評価 (Kohs, TMT, CAT, 三宅式, S-PA, BIT等)
6	講義教室	河野崇	高次脳機能の評価①	検査測定からの評価 (Kohs, TMT, CAT, 三宅式, S-PA, BIT等)
7	講義教室	河野崇	高次脳機能障害への支援①	注意障害
8	講義教室	河野崇	高次脳機能障害への支援②	記憶障害
9	講義教室	外来	高次脳機能障害への支援③	失語① (左半球損傷者への支援)
10	講義教室	外来	高次脳機能障害への支援④	失語② (左半球損傷者への支援)
11	講義教室	河野崇	高次脳機能障害への支援⑤	失行・失認
12	講義教室	河野崇	高次脳機能障害への支援⑥	半側空間無視 (右半球損傷への支援)
13	講義教室	河野崇	高次脳機能障害への支援⑦	遂行機能障害・前頭葉症状 (頭部外傷への支援)
14	講義教室	河野崇	高次脳機能障害への支援⑧	情動障害 (頭部外傷への支援)
15	講義教室	河野崇	高次脳機能障害への支援	臨床実践に向けて観察・全体像の捉え方

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	日常生活作業治療学										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

対象者の生活の質を向上させるために、日常生活の評価と治療、自助具による代償手段についての知識・技術を身につける。

《テキスト》

長崎重信監：『作業療法学コア・カレッジテキスト日常生活活動学（ADL）改訂第2版』メヂカルビュー、2022

《参考図書》

《行動目標 (SBOs)》

1. 日常生活動作の評価と治療を実施できる。
2. 対象者に対し、自助具を提案できる。
3. 片麻痺者の家事動作（IADL）について説明できる。
4. リウマチ患者に対し、日常生活動作の注意点を説明できる。

《学生の留意点》

ADLの治療や自助具の使用方法・適用について学びます。対象者へのアプローチ方法を少しでも多く身につけることを目的としているので、積極的に学んでください。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験100％）で総合的に評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士、福祉機器業者としての実務経験を活かし、日常生活動作と福祉機器を評価を経験できるような演習科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福井	日常生活活動の治療	総論
2	実技教室	福井	ADLの評価と治療①	寝返り・起き上がり動作の治療
3	実技教室	福井	ADLの評価と治療②	立ち上がり動作の治療 移乗の治療
4	講義教室	福井	ADLの評価と治療③	食事（利き手交換）
5	講義教室	福井	ADLの評価と治療④	整容動作
6	実技教室	福井	ADLの評価と治療⑤	更衣動作
7	実技教室	福井	ADLの評価と治療⑥	排泄動作
8	講義教室	福井	ADLの評価と治療⑦	洗体動作
9	講義教室	福井	IADLの支援①	障害を持つ人の家事動作（掃除・料理・車の乗り降り）①
10	講義教室	福井	IADLの支援②	障害を持つ人の家事動作（掃除・料理・車の乗り降り）②
11	講義教室	福井	IADLの支援③	障害を持つ人の家事動作（掃除・料理・車の乗り降り）③
12	講義教室	福井	リウマチ①	リウマチ
13	講義教室	福井	リウマチ②	リウマチ患者に対する生活指導
14	講義教室	福井	介助方法	移乗動作（点滴・パルーンの取り扱い）
15	講義教室	河野崇	MTDLP	生活行為向上マネジメント

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	生活環境支援作業療法学										
担当者氏名	木下 輝 複数外来講師										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

学生は、対象者が症状・環境に適応し生活できるために、環境・機器の評価・適応を学びその知識・技術を身につける。

《テキスト》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ生活環境学テキスト』改訂第2版、南江堂、2020。

《参考図書》

国際福祉機器展H.C.R.2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本
『はじめての住宅改修』『はじめての福祉車両、福祉に役立つ情報機器』

《行動目標 (SB0s)》

- 1.環境改善の方法について説明できる。
- 2.身体障害を補う機器を説明できる。
- 3.身体障害を補う機器を障害に合わせて適用できる。
- 4.動作の工夫方法を説明できる。
- 5.機器・方法の工夫を説明できる。
- 6.症状に合わせた補装具の作成方法を知る。
- 7.症状に合わせた補装具の適用を説明できる。
- 8.対象者に合わせた歩行形態、補助具の選定方法が説明できる。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）60%

課題：ミニッツペーパー（40%）

※期末試験と課題の合計点数が6割に満たないものは再試験（筆記試験のみ）とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	木下	生活環境学の知識	住環境整備の意義と社会制度p1~38
2	講義教室	木下	生活環境学の応用	生活環境整備の進め方と留意点p39~76
3	講義教室	木下	生活環境整備の知識①	場面に応じた生活環境整備の知識p77~104
4	講義教室	木下	生活環境整備の知識②	場面に応じた生活環境整備の方法p105~136
5	実技教室	矢部	生活環境整備の知識③5/12	福祉用具・移乗用リフトの概要
6	実技教室	矢部	生活環境整備の知識④5/19	福祉用具・リフトの使用方法
7	実技教室	木下	生活環境整備の知識⑤	場面に応じた生活環境整備の知識（ベッド上介助・移乗）
8	講義教室	木下	生活環境整備の応用①	場面に応じた生活環境整備の応用（移乗）
9	実技教室	沼尾	歩行補助具の基礎	杖・松葉杖・シルバーカーの種類
10	実技教室	沼尾	歩行補助具の応用	杖・松葉杖・シルバーカーの選定方法
11	講義教室	兵頭	小児領域の環境調整の知識	小児領域の福祉機器・自助具の基礎知識
12	実技教室	岩崎	小児の座位（6/30）	座位評価と車椅子
13	講義教室	木下	生活環境整備の知識⑥	場面に応じた生活環境整備の知識（自助具・環境制御装置）
14	講義教室	山本	住宅改修の知識（7/14）	住宅改修の基礎知識、図面の見方・書き方
15	講義教室	山本	住宅改修の応用（7/21）	住宅改修の実践手順、図面を元にした聞き取り

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	生活環境支援作業療法学演習										
担当者氏名	木下 輝 複数外来講師										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標（GIO）》

学生は、対象者が症状・環境に適応し生活できるために、環境・機器の評価・適応を学びその知識・技術を身につける。

《テキスト》

細田多徳監修：『シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ生活環境学テキスト』改訂第2版。南江堂。2020。

《参考図書》

国際福祉機器展H.C.R.2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本
『はじめての住宅改修』『はじめての福祉車両、福祉に役立つ情報機器』
田中利和、仲木右京：『ハングスプリントの実際～早く・正しく・美しく～』。日本医事新報社。2025。

《行動目標（SBOs）》

1. 環境改善の方法について具体例を説明できる。
2. 身体障害を補う機器の使用方法を説明できる。
3. 身体障害を補う機器を障害に合わせて適用できる。
4. 動作の工夫方法を提案できる。
5. 機器・方法の工夫を説明できる。
6. 症状に合わせた補装具の作成方法を知る。
7. 症状に合わせた補装具の適用を説明できる。
8. 対象者に合わせた歩行形態、補助具の選定方法が説明できる。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）50%

課題：ミニッツペーパー（25%）スプリント（25%）

※期末試験と課題の合計点数が6割に満たないものは再試験（筆記試験のみ）とする。

《学生の留意点》

生活環境支援作業療法学で学んだ内容を実際に行えるよう環境・道具の具体的な評価・工夫・実践を実技を通して学びます。対象者に適用できるようになるために、対象者の障害像を常に思い浮かべながら、具体的に考え学びましょう。
本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士ならびに理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	木下	生活環境整備の応用	場面に応じた生活環境整備の応用（自助具・環境制御装置）
2	実技教室	木村	義手の知識（11/17）	義手の適応・種類
3	実技教室	森田	下肢装具・義足の基礎	下肢装具・義足の種類
4	実技教室	山本	住宅改修の応用（12/1）	住宅改修の例とその理解生活環境整備の知識②
5	実技教室	山本	住宅改修の応用（12/8）	住宅改修の例とその理解
6	実技教室	森田	下肢装具・義足の応用	下肢装具・義足の選定方法
7	実技教室	木村	義手の応用（12/22）	義手の適用
8	実技教室	仲木	上肢装具の知識（1/5）	スプリントの基礎知識①
9	実技教室	仲木	上肢装具の応用（1/5）	スプリントの応用①
10	実技教室	仲木	上肢装具の知識（1/12）	スプリントの基礎知識②
11	実技教室	仲木	上肢装具の応用（1/12）	スプリントの応用②
12	実技教室	仲木	上肢装具の知識（1/19）	スプリントの基礎知識③
13	実技教室	仲木	上肢装具の応用（1/19）	スプリントの応用③
14	実技教室	仲木	上肢装具の知識（1/26）	スプリントの基礎知識④
15	実技教室	仲木	上肢装具の応用（1/26）	スプリントの応用④

《専門分野 地域作業療法学》

科目名	地域作業療法学Ⅱ										
担当者氏名	柴田真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の仕事の可能性を創造するために社会課題の解決に向け活躍している作業療法士の実践を知り作業療法の知識と技術が社会にどのようにやくだつのか理解する

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

授業の中で提示する

《行動目標(SBOs)》

- ①社会課題の解決や軽減に作業療法の知識と技術がどのように利用できるのか実践例を挙げて説明できる
- ②自分はどのような社会課題の解決や軽減に作業療法の知識と技術を利用できると考えるのか、具体的に説明できる

《学生の留意点》

臨床家による講義を多く含みます。各セラピストの貴重な経験や考え方を学ぶ機会となるので、積極的な授業参加を期待する。また、社会課題についても普段から関心を寄せ情報収集することを求める。*授業の順番が変わることがあります。本科目各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《成績評価の方法》

筆記試験60% 提出課題22% 発表課題18%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	柴田	オリエンテーション	オリエンテーション 地域作業療法Ⅰ振り返る
2	講義教室	柴田	高齢者の暮らしと地域活動	活動の概要・活動を始めるきっかけ・活動内容・やりがいや困難・今後の課題や夢など
3	講義教室	初鹿	障害者と旅行	〃
4	講義教室	河野	養護施設	〃
5	講義教室	南澤	子ども食堂	〃
6	講義教室	黒田	不登校児支援	〃
7	講義教室	石井	動物介在療法	〃
8	講義教室	八重樫	放課後等デイサービス	〃
9	講義教室	濱田	市役所	〃
10	講義教室	外来	ITと作業療法	〃
11	講義教室	加藤	就労支援	〃
12	講義教室	林	更生施設	〃
13	講義教室	柴田	地域課題と作業療法①	地域課題を発見、課題について調査しどのように解決を図るか検討、発表準備を行う
14	講義教室	柴田	地域課題と作業療法②	発表
15	講義教室	柴田	まとめ	14回の授業を振り返り各自まとめを行う。

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 I										
担当者氏名	福井健太郎										
授業方法	実習	単位数	2	回数	-	時間数	90	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

- ・ IA (検査測定実習) : 作業療法における検査・測定の目的とその必要性、実施方法について理解する。
- ・ IB (地域見学実習) : 介護保険および医療保険における、地域作業療法の実践課程を理解する。
- ・ 両実習を通じて、職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《行動目標(SBOs)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 基本的な検査と基礎医学的知識を関連づけて説明できる (IA)
3. 対象者に必要な基本的な検査測定を見学・模倣できる (IA)
4. 地域包括ケアシステムの概要を説明できる (IB)
5. 訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの役割について説明できる (IB)
6. 地域包括ケアシステムに関わる多職種との連携について説明できる (IB)
7. 地域包括ケアシステムの中における作業療法士の役割や専門性、心構えについて説明できる (IB)

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

実習指導者による臨床実習 IA (検査測定実習) ならびに臨床実習 IB (地域見学実習) (

《学生の留意点》

実習オリエンテーション資料をよく読み、実習に臨むこと。授業で習った検査測定を事前によく練習したうえで実習に臨むこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は実習先の作業療法士が担当し、その実務経験を活かし、学生が実際に検査測定・評価を経験できる内容である。
実習後セミナーに関しては学内教員が担当する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	IA実習	福井	検査・測定の経験(見学・模倣)	対象者に対して、可能な範囲で検査・測定(ROM, MMT, 知覚検査, 片麻痺機能検査, ADL検査等)を基本的な方法で経験(見学・模倣)する。
2	IA実習	福井	基本動作介助を経験する。	対象者に対して、起居・移乗・移動などの基本動作の介助を経験する。
3	IA実習	福井	実習記録をつける	デイリーノート、経験事例の記録、臨床実習経験記録等に記入し、実習指導者からのフィードバックを受ける。
4	IB実習	福井	地域リハビリテーションを見学する	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて見学し説明を受ける。
5	IB実習	福井	実習記録をつける	デイリーノート、経験事例の記録、臨床実習経験記録等に記入し、実習指導者からのフィードバックを受ける。
6	実習後セミナー	福井	実習後セミナー	学院において実習経験の発表と共有を行う
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ-B										
担当者氏名	福井健太郎										
授業方法	実習	単位数	3	回数	—	時間数	135	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									○
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									○

《一般教育目標(GIO)》

身体領域における作業療法評価を理解できる。また、職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《行動目標(SBOs)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 対象者や家族に対して評価に関する適切なオリエンテーションを実施できる
3. 実習地の状況に応じ可能な範囲で評価を経験できる
4. 各検査結果の解釈を説明できる
5. ICFに基づき、各機能・障害、生活状況の相互関係を説明できる
6. 実習指導者の考える目標設定の理由を説明できる
7. 実習指導者の説明を受け、問題点・目標に対応した治療プログラムを説明できる
8. 記録・報告を実施できる

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

臨床実習ⅡB(身体領域 評価実習)の最終的な成績評価は、実習指導者による臨床実習ⅡB(身体領域 評価実習)臨床実習指導報告書による評価と、学院で実施する実習後セミナー、提出書類の内容を総合して学院が決定する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実習	福井	検査・測定を見学・模倣・実施を行う	対象者に対して、検査・測定(ROM, MMT, 知覚検査, 片麻痺機能検査, ADL検査等)を基本的な方法で見学・模倣・実施し、作業療法評価を経験する。
2	実習	福井	評価結果に対し統合と解釈, 目標設定を経験する	1症例の検査・測定・評価結果に対し、指導者の指導の下、統合と解釈、目標設定を行う。
3	実習	福井	実習記録をつける 基本的な介助を経験する	実習ノートに検査・測定した内容を記載し、指導者からのフィードバックを受ける。 対象者に対して起居・移乗・移動などの基本動作の介助を経験する。
4	実習後 セミナー	福井	実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《学生の留意点》

学習オリエンテーション資料を良く読み、実習に臨むこと。授業で習った検査測定を事前によく練習したうえで実習に臨むこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は実習先の作業療法士が担当し、その実務経験を活かし、学生が実際に検査測定・評価および、評価をまとめる経験ができる内容である。